

7 幡多地域

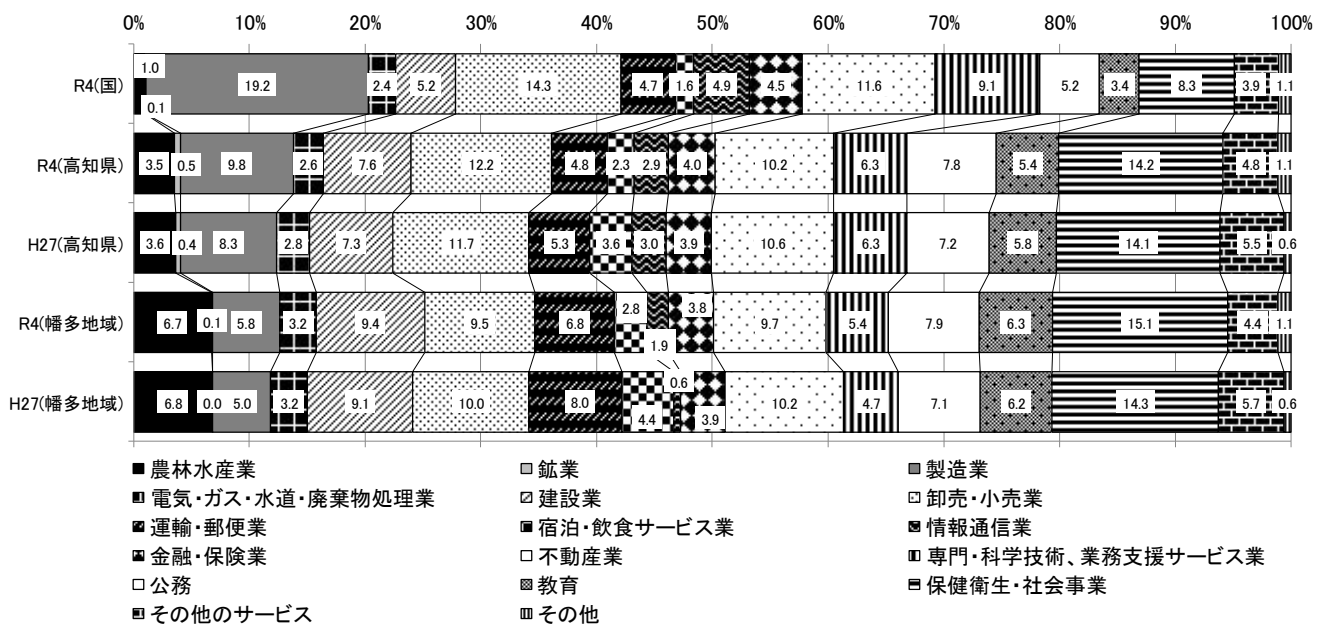
(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知県の西南部に位置する幡多地域では、温暖な気候や黒潮の恵みなどの自然環境を生かしながら、地域の基幹産業である第一次産業を中心とした産業づくりが展開されてきましたが、年々人口が減少し、昭和30年代半ばには14万人余（大正町、十和村を除く）であったものが、令和2年の国勢調査では80,248人となり、前回調査（平成27年）と比較して7.6%減少しています。

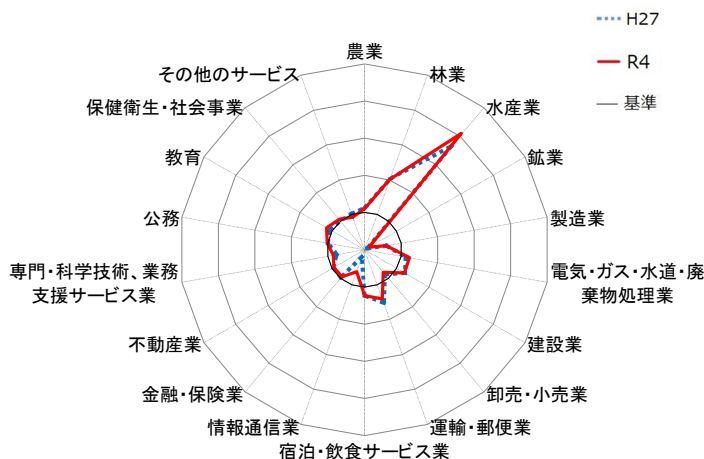
幡多地域の令和4年度の市町村内総生産（名目）は、262,572百万円であり、平成27年度と比較すると約4.4%減少しています。なお、令和4年度の県内総生産（名目）に占める割合は約10.9%です。

産業別構成比（令和4年度）は、農林水産業の割合が県全体と比較して高いことが、特色として挙げられます。

県内（国内）総生産（名目）の産業別構成比



産業構造の特徴



高知県を比較対象とした場合	幡多		高知県を比較対象とした場合	幡多	
特化係数※	H27	R4	特化係数※	H27	R4
農業	1.13	1.11	宿泊・飲食	1.23	1.23
林業	2.03	2.01	情報通信業	0.21	0.63
水産業	3.65	4.08	金融・保険業	0.99	0.96
鉱業	0.08	0.16	不動産業	0.96	0.96
製造業	0.60	0.59	専門	0.76	0.85
電・ガ・水・廃	1.12	1.23	公務	0.99	1.01
建設業	1.26	1.24	教育	1.07	1.16
卸売・小売業	0.86	0.78	保健衛生	1.02	1.07
運輸・郵便業	1.52	1.41	その他サービス	1.03	0.92

※特化係数：幡多地域の経済活動ごとの構成比を高知県と比較し、高知県から見た相対的な経済活動構成比の大きさを表す指標。

出典：市町村経済統計（高知県）、国民経済計算（内閣府）

農業分野

冬季温暖な海岸部と四万十川流域を中心とした平野部では、施設・露地野菜、花き、水稲、果樹の栽培が、急峻な地形の山間部では、露地野菜や果樹、水稲など、地域の特性を生かした多様な農業が展開されています。

しかしながら、高齢化や担い手の減少、耕作放棄地の増加、異常気象の影響など、農業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

そのため、IoT クラウド等の活用によるデータ駆動型農業の推進や、集落営農の法人化・広域化、農福連携など、新たな技術の導入や中山間地域の農業を支える仕組みづくりなどに取り組んでいます。

林業分野

原木生産量が拡大し森林資源の活用が進んでいるものの、持続可能な林業振興には森林資源の循環利用が重要であることから、森林伐採後の再造林の促進や担い手の育成・確保などに取り組んでいます。

水産業分野

地勢に恵まれ豊かな漁場が形成されたことで、多種多様な漁船漁業や養殖業に加え水産加工業などの関連産業も栄えてきましたが、漁業者の減少や高齢化のほか、環境変化に伴う漁獲量の変動や燃料・資材の高騰など、水産業を取り巻く環境は厳しいものになっています。

そのため、担い手の育成・確保やフィレ加工等による高付加価値商品の販売を推進するとともに、デジタル技術を活用した漁業のスマート化など操業の効率化にも取り組んでいます。

商工業分野

郊外への大規模小売店の進出を中心とした新たな商業集積などの影響を受け、商店街や市街地の小売業を取り巻く環境は厳しさを増しています。また、建設業の総生産額は増加傾向にあるものの、製造業の産業別構成比は、県全体と比較しても低い状況です。

このため、地域の産業間の連携を強化し、地域資源を活用した競争力のある商品づくりを進めるとともに、誘客促進と販路拡大に向け観光分野の取り組みとも連携しながら、中心商店街や中心市街地、道の駅などの拠点施設の魅力づくりに取り組んでいます。

観光分野

幡多地域の持つ「自然」や「食」、「歴史文化」、「人柄」を生かした滞在型・体験型観光やスポーツツーリズムの取り組みが進んでいます。

また、足摺海洋館「SATOUMI」や、リニューアルされた道の駅、グランピング施設など拠点施設の整備も進んでいます。

これまで磨きあげてきた地域資源と、新たな拠点施設等を組み合わせた周遊プランを造成するなど、県、幡多6市町村、観光関係団体・事業者など官民が一体となって、国内外からの誘客促進に向けた取り組みを進めています。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、各市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取り組みと歩調を合わせながら、地域の基幹産業である第一次産業をはじめとした地域産業の振興に引き続き取り組んでいきます。

また、地域の素材を効果的に活用した加工品づくり、新たなものづくりなどを後押しすることにより、販売拡大や新たな雇用の創出、地域住民の所得向上につなげていきます。

農業分野

ユズ、直七、ぶしゅかんやフィンガーライムなどの柑橘類やイチゴ、栗といった地域特性を生かした品目の産地づくりから販路拡大、加工品開発の取り組みを強化し、農業者の所得向上や担い手の確保につなげていきます。

また、畜産関係では、四万十市西土佐地域で取り組んでいる「四万十牛」の生産・販売の拡大を通して、地域産業の活性化につなげていきます。

水産業分野

メジカやタイ、ブリ、クロマグロなどの地域資源を生かした加工品開発と商談会への出展等による認知度向上・ブランド化の取り組みを進めることで、販路拡大を図ります。

こうした取り組みを通して、漁業者が安定した収入を確保できる仕組みを確立し、地域産業の活性化と担い手の育成・確保につなげていきます。

商工業分野

地域資源を活用した商品開発・加工品づくりを進め、生産管理の高度化、効率化による生産拡大、販売拡大などに取り組めます。

また、幡多地域は首都圏など大消費地から遠く、経営基盤や社内態勢が脆弱な零細事業者にとってニーズ把握や営業活動の面でハンディがありますが、アドバイザー制度等を活用し商品力の強化を図るとともに、商談会への出展、県内外の事業者と連携した販路拡大の取り組み、さらにはオンライン環境やメディアを通じた情報発信、高知県アンテナショップの活用など、あらゆるチャネルを利用し外商活動を展開していきます。

さらに、道の駅や地域の拠点施設等における集客機能についても強化し、定期的なイベント開催などによる賑わいづくりと交流人口の増加を図るとともに、宗田節関連商品など地元独自の製品の認知度向上・ブランド化の取り組みをより一層強化し、売上アップと周辺地域への経済的な波及効果を拡げていきます。

観光分野

柏島や四万十川など、これまで磨きあげてきた自然体験型観光のメニューに加え、道の駅やグランピング施設など観光拠点施設と連携したツアーの造成や、受入体制の強化に取り組んでいます。

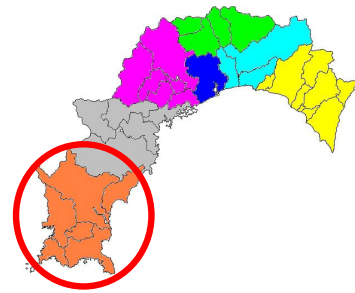
令和7年度に黒潮町が「持続可能な観光の国際認証（グリーンデスティネーションズトップ100）」を取得したことを受けて、インバウンド対応のさらなる充実を目指すとともに、誘客促進や滞在時間の延長に取り組めます。

また、SDGsを切り口とした体験プログラムの充実をはじめ、スポーツ合宿と観光を組

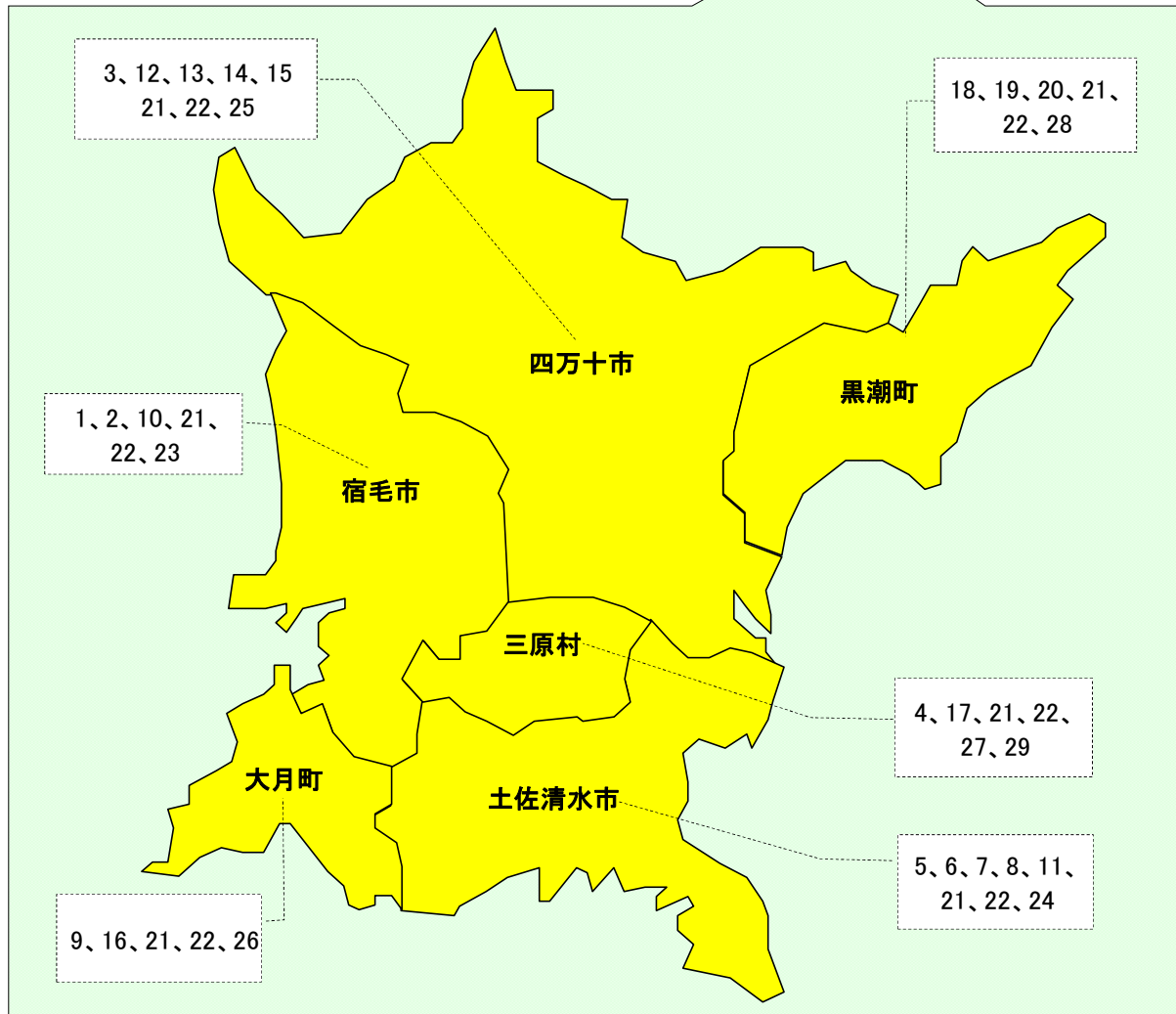
み合わせた周遊プランの造成やプロモーション活動などについても、(一社) 幡多広域観光協議会を中心に、地域が一体となって取り組みます。

(3) 具体的な取り組み

分野	No.	項 目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町
農	1	宿毛市特産直七の生産・加工・販売の推進	●					
	2	宿毛市イチゴ・フィンガーライムブランド化推進プロジェクト	●					
	3	四万十ぶしゅかんの産地形成とブランド化			●			
	4	三原村ユズ産地化計画の推進					●	
水	5	土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進		●				
	6	宗田節関連商品の販路拡大の推進		●				
	7	宗田節の一般向け加工商品の販売促進と体験観光の強化		●				
	8	新たな製造方式による宗田節等の生産・販売の強化		●				
	9	宿毛湾の水産加工品等の販売拡大				●		
商工	10	道の駅「すくもサニーサイドパーク」を拠点とした地域振興	●					
	11	道の駅「めじかの里土佐清水」を拠点とした地域振興		●				
	12	売り出せ西土佐プロジェクト			●			
	13	幡多地域の農水産物を活用したペット関連商品の開発・販売拡大			●			
	14	幡多地域産品を活用した冷凍加工食品の開発・製造・販売の推進			●			
	15	地元食材を活用した加工品の開発・製造による地産地消・外商の推進			●			
	16	道の駅「ふれあいパーク・大月」を拠点とした産業振興と賑わいの創出				●		
	17	三原村のどぶろくによる地域活性化					●	
	18	黒潮町産天日塩を活用したビジネスの推進						●
	19	黒潮町産天日塩の販売拡大及び地域ブランド化の推進						●
	20	黒潮町の地域資源を中心とした防災関連商品づくりの推進						●
	21	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●
観光	22	幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化	●	●	●	●	●	●
	23	宿毛市の地域資源を活用した観光振興	●					
	24	土佐清水まるごと戦略観光の展開		●				
	25	四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進			●			
	26	大月町の地域資源を活用した観光振興				●		
	27	三原村の魅力をいかした滞在型・体験型観光の推進					●	
	28	黒潮町の地域資源を活用した観光の推進						●
他	29	集落活動センターやまびこによる三原村の産業振興					●	



【幡多地域】



幡多地域アクションプラン

分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.1 宿毛市特産直七の生産・加工・販売の推進 (宿毛市)	
実施主体	◎直七生産(株)、宿毛市	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	地元柑橘の一つである直七の生産・加工・販売を推進することで、耕作放棄地の利用を促すとともに、農家所得の向上と雇用の創出を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化	・直七生産組合の設立(H21) ・搾汁施設等の整備(H22)→ 産振補助金の活用 ・直七生産組合の法人化(直七生産(株))による組織体制の強化(H27) ・県版 HACCP 旧第 3 ステージの認証取得(H28) ・産地化推進のための苗木配布(H28～R 元) → 地方創生推進交付金の活用 ・搾汁機械の改修(R2)→ ものづくり補助金の活用 ・直営ほ場に獣害対策の防護ネット柵設置(R6) → 鳥獣被害防止総合対策事業費補助金の活用 ・直七栽培部会の設立(R6) ・剪定講習の実施(R6～) ・直七振興協議会の設立(R7)	【成果】 ・売上高(直七生産(株)) - R2：2,967 万円 →R4：6,570 万円 →R5：7,252 万円 →R6：1,501 万円 →R7：8,023 万円 ・作付面積の拡大 - R7：27.0ha ・雇用の創出 - 長期(非正規)1 名(R4) →非正規から正規に変更 1 名(R5)
販路拡大	・果汁を使用した缶チューハイ、ボン酢等を大手メーカー（飲料・調味料）が期間限定で販売(H27～) ・県内外に店舗をもつ飲食店事業者が直七の卸売事業を開始(R2～) ・直七商品販売事業者に販売促進事業を委託(R2～R6) → 特産農畜産物販売拡大総合支援事業費補助金の活用	【課題】 ・栽培管理の強化 ・栽培面積の拡大 ・集荷率の向上 ・収穫・搾汁の人員確保・効率化 ・安定した販路の確保 ・在庫確保

分野

農業

AP 名 (実施地域)	No.1 宿毛市特産直七の生産・加工・販売の推進 (宿毛市)	
実施主体	◎直七生産(株)、宿毛市	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	地元柑橘の一つである直七の生産・加工・販売を推進することで、耕作放棄地の利用を促すとともに、農家所得の向上と雇用の創出を図る。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	3,438 万円 (R3)	1,501 万円	8,023 万円		6,000 万円

※会計年度：1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
需要増に対応した生産の拡大 ■直七生産(株) ・生産者への栽培技術指導 ・獣害対策等の栽培管理の強化、作付面積の拡大 ・品質に応じた果実買取単価の引き上げ、収穫・搾汁に要する人員の確保 ・搾汁施設の高度化の検討 ■宿毛市 ・新規作付候補地の調査 □県(幡多農業振興センター、地域本部等) ・生産者への栽培技術指導 ・各種支援制度の情報提供			栽培管理の強化 作付面積の拡大 施設高度化の検討		
安定した取引先の確保 ■直七生産(株) ・既存の一次卸売事業者との継続的な取引 □県(地域本部等) ・商談会等の情報提供				取引先との商談	
新商品の開発及び既存商品の改良 ■直七生産(株) ・市場調査によるニーズ把握 ・商品化の働きかけ ■宿毛市 ・直七の加工に向けた市内事業者への働きかけ □県(地域本部等) ・各種支援制度の情報提供				新商品の開発 販 売 既存商品の改良 販 売	

【用語】・直七：古くから幡多地域で栽培されている酢みかん。「魚料理には欠かせない」日常の食材で、広島県因島地方原産の「田熊スダチ」という品種で、かつて直七という魚商人が「魚にかけるとおいしい」と触れ回ったことからこの名がついている。

幡多地域アクションプラン

分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.2 宿毛市イチゴ・フィンガーライムブランド化推進プロジェクト (宿毛市)	
実施主体	◎宿毛市、◎(一社)スタートアグリカルチャーすくも、JA 高知県 (幡多地区) 、他関連事業者	
AP への位置づけ	R2.4 月	
事業概要	宿毛市農業公社「(一社)スタートアグリカルチャーすくも」を中心として、主要農産物である「イチゴ」の生産拡大と、新規特産柑橘である「フィンガーライム」について栽培技術確立し安定生産を図る。また、規格外品の加工による付加価値向上や成分分析等の活用による有利販売を目指すことで、生産者の所得向上と地域活性化につなげる。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)イチゴ売上高※ (JA 出荷額)	7,514 万円 (R2～4 平均)	8,894 万円 (R4～6 平均)		R8	R9 9,000 万円 (R7～9 平均)
(2)フィンガーライム売上高※	150 万円 (R4)	420 万円			700 万円

※会計年度：1 月～12 月

主な取り組み		これまでの主な動き	主な成果・課題
		取り組みの内容	
イチゴの生産・販路拡大		・(一社)スタートアグリカルチャーすくも設立(H31.4月) ・研修用ハウス完成(R元.11月) ・佐田農園の「冷凍イチゴ」を宿毛市ふるさと納税返礼品に登録(R元) ・イチゴを使った商品開発(R3～)	【成果】 ・研修生の就農 イチゴ 4名 フィンガーライム 1名 (R2～R5累計) →イチゴ + 1名(R6) ・イチゴ売上高 R元：5,720万円 →R4：8,466万円 →R5：8,834万円 →R6：9,382万円 ・フィンガーライム売上高 R2：0万円 →R4：150万円 →R5：335万円 →R6：420万円
フィンガーライムの生産・販路拡大		・栽培開始(R2) ・出荷開始(R3) ・味覚・香り等の成分分析(高知大学との連携)(R5) ・フィンガーライムを使った加工品開発(R6)	【課題】 ・研修生の確保 ・新規就農者用のハウス不足 ・ハウス資材の価格高騰 ・フィンガーライム栽培管理技術の確立 ・加工品等の開発

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
イチゴの生産拡大 ■（一社）スタートアグリカルチャーすくも、宿毛市、JA 高知県 ・研修生の確保及び研修、新規就農者のための用地（ハウス）の確保支援、サポートハウスの整備・運営、農福連携の実証・普及推進 □県（幡多農業振興センター等） ・各種支援制度に関する情報提供、各協議への参加 販売促進及び加工品開発 ■（一社）スタートアグリカルチャーすくも、宿毛市、JA 高知県 ・「だるま莓」の知名度向上 ・規格外品の加工品を開発 ・地域イベント（イチゴフェア等）の開催 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供		サポートハウスの整備			サポートハウスの運営
					加工品の開発
					ふるさと納税等を通じた販売
					イチゴフェア開催
フィンガーライムの生産拡大 ■（一社）スタートアグリカルチャーすくも、宿毛市 ・新規参入に関する支援 □県（幡多農業振興センター等） ・各種支援制度に関する情報提供 ・栽培管理・事業計画策定に伴う支援 販路開拓及び加工品開発 ■（一社）スタートアグリカルチャーすくも、宿毛市、JA 高知県、高知大学等 ・成分分析データを活用した販路開拓（テストマーケティング、展示会出展） ・加工品の開発 □県（地域本部等） ・展示会等の情報提供 ・各種支援制度に関する情報提供					栽培技術の確立
					テストマーケティング
					展示会出展
		加工品の開発			ふるさと納税等を通じた販売
【用語】 ・フィンガーライム：オーストラリア原産の香酸柑橘。指のような形をした果実の中に細かな粒状の果肉が詰まっている。別名「フルーツキャビア」。 ・サポートハウス：研修を終えた新規就農者がハウスを確保するまでの間に、期限付きで安価に利用できる園芸用ハウス。 ・農福連携：農業分野での労働力確保と障害者等の就業支援をマッチングする取り組み。					

幡多地域アクションプラン		分野	農業
AP 名 (実施地域)	No.3 四万十ぶしゅかんの産地形成とブランド化 (四万十市)		
実施主体	◎四万十ぶしゅかん生産者組合、◎四万十ぶしゅかん(株)、四万十市		
AP への位置づけ	H28.4 月		
事業概要	地域特産のぶしゅかんを産地化し生産量の拡大を図るとともに、全国展開できるブランド力を育成することで、農家所得の向上を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き		主な成果・課題
	取り組みの内容		
生産体制強化	・四万十ぶしゅかん生産者組合の設立（H28） ・青果買取り基準の作成（H28） ・栽培マニュアルの策定（H29） ・搾汁施設整備（H28）→ 四万十市産業振興補助金の活用 ・熱処理殺菌庫の導入（R3）→ 事業再構築補助金の活用 ・市苗木補助、有害鳥獣対策用防護柵設置補助の実施 ・搾汁機械等の導入（R7） →四万十市産業振興推進総合支援事業費補助金の活用	【成果】 ・組合員数 R4：47 名 →R5：58 名 →R6：63 名 →R7：69 名 【課題】 ・県内外でのぶしゅかんのさらなる認知度向上 ・青玉出荷の拡大	
販路拡大	・商談会、イベント等への出展 ・市内小中学校での出前授業		

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)生産量※	44,197kg (R5)	22,427kg	55,255kg		60,000kg
(2)生産額※	5,400 千円 (R5)	2,718 千円	7,800 千円		15,900 千円

※収穫期：8 月～10 月

第5期計画における行程表						
事業概要			R6	R7	R8	R9
栽培面積の拡大と技術向上 ■ 四万十ぶしゅかん生産者組合、四万十市 ・苗木の育成、新植及び改植の推進 ・定着率向上や青玉の生産等のための栽培指導、栽培基準の更新 ・好適圃場の調査 □ 県（幡多農業振興センター等） ・栽培に関する助言 青玉の出荷を強化 ■ 四万十ぶしゅかん生産者組合、四万十ぶしゅかん(株)、四万十市 ・青果買取り基準の更新 ・青玉の輸送方法（鮮度維持・運賃）の検討 □ 県（地域本部、幡多農業振興センター等） ・各種支援制度に関する情報提供 増産に伴う課題の検討 ■ 四万十ぶしゅかん生産者組合、四万十ぶしゅかん(株)、四万十市 ・集荷量が超過した場合の対応の検討 □ 県（地域本部等） ・産振補助金ほか、各種支援制度に関する情報提供			新植及び改植の推進、栽培指導			
			出荷基準の更新			
			青玉長期保存の研究			
			効果的な青玉の鮮度維持・輸送方法の検討			
			集荷量超過への対応検討（搾汁・保存）			
販路拡大 ■ 四万十ぶしゅかん生産者組合、四万十ぶしゅかん(株)、四万十市 ・営業強化による青玉の出荷拡大 ・商談会等への出展 □ 県（地域本部等） ・県アンテナショップの活用支援 ・産振アドバイザー制度の活用 ・商談会ほか各種支援制度に関する情報提供			商談会等への出展			
			県内外への外商			
			青玉出荷の拡大			

分野		農業
AP 名 (実施地域)	No.4 三原村ユズ産地化計画の推進 (三原村)	
実施主体	◎(公財)三原村農業公社、JA 高知県（幡多地区）、三原村	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	三原村の環境を生かした農業振興策として、ユズの産地化と販路拡大による所得の向上を目指す。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
ユズ売上高(公社)	5,755 万円 (R4)	6,620 万円			11,255 万円

主な取り組み		これまでの主な動き	主な成果・課題
ユズ産地の確立		・乗用トラクター等機械整備（H21）→ 産振補助金の活用 ・共同選果場兼農業用機械倉庫等整備（H22） → 産振補助金の活用 ・予冷库・カラリング施設整備（H23）→ 産振補助金の活用 ・ユズ選果搾汁施設整備（H27）→ H26 産振補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第 2 ステージの認証取得（H29） ・増産のための農地造成及び農道舗装工事（H30） → 中山間地域所得向上支援事業の活用 ・ユズドリンク、ユズ胡椒、ピール菓子等の商品開発・販売 ・商品開発・販売促進・加工施設等についてノウハウ取得(H24) → 産振アドバイザー制度の活用	【成果】 ・ユズ売上高 H19：1,246万円 → R4：5,755万円 (青果 1,076万円 搾汁・加工品 4,679万円) → R5：8,506万円 (青果 1,863万円 搾汁・加工品 6,643万円) → R6：6,620万円 (青果 1,752万円 搾汁・加工品 4,868万円) ・栽培面積 H19：7.6ha → R4：51.4ha (うち公社 34.4ha) → R5：51.4ha (うち公社 34.4ha) → R6：51.4ha (うち公社 36.2ha) ・生産量 H19：65t → R4：246t(うち公社 112t(青果 24t)) → R5：342t(うち公社 261t(青果 72t)) → R6：299t(うち公社 201t(青果 40t)) ・新規就農 公社で研修し、新規就農 した人数：3人 (H29～R6) 【課題】 ・産地の確立に向けた新規就農者の確保・育成 ・収量の増加 ・収穫時期及び栽培管理における労働力不足 ・販路拡大に向けた県内外への外商強化

第5期計画における行程表						
事業概要		R6	R7	R8	R9	
栽培技術の向上と生産量の拡大						栽培技術の向上と生産量の拡大
■(公財)三原村農業公社						
・整枝・剪定技術の向上と適期防除等による生産量の拡大						
□県（幡多農業振興センター）						
・栽培技術に関する助言、各種支援制度に関する情報提供						
担い手の確保						担い手の確保
■三原村						
・新・農業人フェアや Web(HP 等)での PR 活動等による研修生の確保						
■(公財)三原村農業公社						
・研修生への研修を通して地域の担い手としての人材育成						
□県（幡多農業振興センター）						
・現地講習会など新規就農者への栽培技術や農業経営の指導						
販路拡大						商談会・催事等への参加や営業活動等
■(公財)三原村農業公社						
・商談会・催事等への参加やバイヤー等への営業活動等、県内外への外商強化						
・加工品開発の検討						
□県（地域本部等）						
・各種イベントや支援制度に関する情報提供						

幡多地域アクションプラン

分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.5 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進 (土佐清水市)	
実施主体	◎ 土佐清水食品(株)、宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	土佐清水市の主要な産業の一つであるメジカ関連産業を核として、原材料の確保から加工食品の製造、販売の促進を一体的に取り組み連携体制を構築することで地産地消・外商を強化し、雇用の創出と地域経済の活性化を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
保管・加工施設の円滑な運営	・冷凍保管施設の稼働開始（H31） → 水産業競争力強化緊急施設整備事業の活用 ・残渣加工施設の稼働開始（R3） → リマ区域周辺漁業用施設設置事業の活用 ・共同加工施設の本格稼働開始（R4） → リマ区域周辺漁業用施設設置事業の活用	【成果】 ・売上高(土佐清水食品) R2:18.9 億円 →R4:21.1 億円 →R5:21.0 億円 →R6:22.1 億円 ・宗田節まつりの来場者 R 元：2,500 人 →R4：3,000 人 (あいうわまんぶくフエスタ、 ジョン万祭と同時開催) →R5:9,200 人 →R6:9,898 人 →R7:1,278 人 (産業祭と同時開催)
キューブ状商品製造・販売体制の確立	・殺菌・真空包装機器の整備（H22） → 産振補助金の活用 ・スーパブロス商品化（H30） ・スーパブロス製造ラインの整備（R3） → R2(R3 繰越)産振補助金の活用 ・エアジャワー等の導入による衛生管理の強化（R3） → R2(R3 繰越)新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・JFS-B 規格の認証取得（R5） ・新商品「カンタンだし」の販売開始（R7） ・商談会・イベント等への出展	【課題】 ・原魚の確保 ・共同加工施設等の利用促進 ・キューブ状商品の販路拡大
メジカ・宗田節の認知度向上	・宗田節ロード（スタンブラリー）実施（H29～R2） ・宗田節まつりの開催（H30、R 元、R3～R7） ・市内小中学校での食育活動の実施（R4～）	・宗田節の認知度向上

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	21.1 億円 (R4)	22.1 億円		R8	R9 25.8 億円
キューブ状商品売上高	965 万円 (R4)	924 万円			2.4 億円

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
保管・加工施設の円滑な運営 ■ 土佐清水食品(株) ・効率的な人員配置 ・生産管理等による施設の円滑な運営 ■ 土佐清水市 ・施設の円滑な運営 ・事業者の施設利用の促進 □ 県 ・産振アドバイザー制度等の活用提案				保管・加工施設の円滑な運営	
キューブ状商品を核とした製造・販売体制の強化 ■ 土佐清水食品(株) ・アンテナショップの活用 ・商談会・展示会への参加 ・新商品の開発・販売 ・OEM による新商品の開発・販売 ・機器導入の検討（オープン・袋詰め作業の自動化） ・JFS-B 規格に基づく衛生管理の強化 □ 県（地域本部等） ・商談会等の情報提供 ・関係機関への橋渡し				全国的な販路拡大による販売拡大 新商品の開発 販 売 機器導入の検討	
メジカ・宗田節の全国的な PR ■ 土佐清水食品(株) ・SNS 等を活用した情報発信の強化 ・商談会・展示会への参加 ■ 宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市 ・知ってもらいたい委員会の運営 ・市内小中学校での食育活動の実施 □ 県（地域本部等） ・商談会等の情報提供				情報発信の強化 市内での普及活動	

幡多地域アクションプラン		
分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.6 宗田節関連商品の販路拡大の推進 (土佐清水市)	
実施主体	◎(株)ウエルカムジョン万カンパニー	
AP への位置づけ	H26.4月	
事業概要	宗田節関連商品の生産体制・衛生管理体制を充実し、新たな商品開発と販路拡大を図ることにより、宗田節生産者の所得向上と雇用の創出を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化と商品開発	・「加工施設」の整備（H26） → 産振補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第3ステージの認証取得（H29） ・衛生管理体制の維持・向上のための社内勉強会開催 ・「宗田節おかきカレー味」の販売開始（R2） ・宗田節粉末機及び衛生環境の整備（R3） → R2(R3 緑越)新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・加工施設リニューアルに関する経営計画策定に向けた課題抽出（R6） → 産振アドバイザー制度の活用 ・宗田節加工工場の作業効率改善と増築による増産体制の構築（R6） → 産振補助金の活用	【成果】 ・生産拡大に伴う雇用創出 →正職員1名（R4） 【課題】 ・商品の改良 ・販路拡大
販路拡大	・各種商談会への出席 ・JAL 中国向けの WeChat 出品	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	8,659万円 (R4)	9,216万円			1億 332万円

※会計年度：7月～6月

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産体制の強化 ■(株)ウエルカムジョン万カンパニー ・施設整備及び機械設備の導入 ・衛生管理体制の向上 □県（地域本部） ・産振補助金活用に関する助言 ・活用可能な補助メニューの提案		施設整備	稼働開始		
商品開発・改良 ■(株)ウエルカムジョン万カンパニー ・新商品の開発（削り節・業務用の粉末） ・既存商品の磨き上げ・改良 ・粉末や削り節を使った OEM による新商品開発 □県（地域本部） ・産振アドバイザー制度の活用提案 ・商品開発に活用できる支援策の提案			新商品の開発	販売	
				既存商品の磨き上げ・改良	
販路拡大 ■(株)ウエルカムジョン万カンパニー ・商談会、展示会への出席 ・キッチン雑貨店、食のセレクトショップ、高質スーパー等への営業 □県（地域本部） ・商談会、展示会情報の提供				県外での販路拡大	

幡多地域アクションプラン

分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.7 宗田節の一般向け加工商品の販売促進と体験観光の強化 (土佐清水市)	
実施主体	◎(株)たけまさ商店	
AP への位置づけ	R2.4月	
事業概要	付加価値の高い一般消費者向け加工商品の開発・販売拡大と節づくり体験観光の利用者数の増加を図ることにより、地域の基幹産業である宗田節の販売拡大及び知名度の向上を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化、販売拡大	・「宗田節加工販売・体験観光施設」の整備（R2） → 産振補助金の活用 ・土佐 MBA「商人塾・短期集中コース」受講（R2） ・商談会・イベント等への参加 ・販売拡大に向けたセミナーの受講（R2） （オンライン商談、スマホ動画作成） ・新商品の開発及び店内レイアウトの改良（R2） → 産振アドバイザー制度の活用 ・「鰹だし薫るポタージュスープ Dashi Pota」の販売開始（R4） ・「鰹だし薫るポタージュスープ Dashi Pota トマト味」の販売開始（R5）	【成果】 ・売上高 R2:5,889 万円 →R5:7,454 万円 →R6:8,383 万円 →R7:7,652 万円 ・体験者数 R2:96 名 →R5:302 名 →R6:174 名 →R7:250 名 ・雇用創出 R2:正 4・非正規 6 →R4:正 4・非正規 8 →R5:正 4・非正規 7 →R6:正 4・非正規 7 【課題】 ・原魚の確保 ・宗田節の知名度向上 ・販路拡大 ・職員の高齢化 ・体験観光客数の増加
節納屋体験観光の強化	・飲食店の営業許可の取得、軽食の提供開始（R3） ・宗田節納屋体験オンラインツアーの実施（R3～） ・だしバーガー、宗田節定食の販売（R4～） ・集客イベントの開催（R4～）	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)売上高※	7,454 万円 (R5)	8,383 万円	7,652 万円		1 億 500 万円
(2)体験者数※	302 名 (R5)	174 名	250 名		950 名

※会計年度：8 月～7 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
商品開発・販売拡大 ■(株)たけまさ商店 ・新商品の開発・販売 ・高付加価値商品の開発・販売 ・パッケージ等の見直し ・商談会・イベント等への出展 ・増産に伴う生産体制の強化、新たな人材の雇用及び育成 □県（地域本部等） ・産振アドバイザー制度等の活用提案 ・商談会、各種セミナー等の情報提供		商品開発	既存商品の磨き上げ	販売拡大	販売
節納屋体験観光の強化 ■(株)たけまさ商店 ・SNS を活用した情報発信の強化 ・販促物の作成 ・ホテルや旅行会社との連携 □県（地域本部） ・産振アドバイザー制度等の活用提案 ・各種セミナーの情報提供 ・関係機関との連携促進		技術 承継	生産体制の強化	情報発信の強化	

幡多地域アクションプラン

分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.8 新たな製造方式による宗田節等の生産・販売の強化 (土佐清水市)	
実施主体	◎(有)ヤマア	
AP への位置づけ	R3.4 月	
事業概要	宗田節等生産の培乾工程に、焼津式乾燥機等を活用し、生産性の向上や生産拡大、小売商品の磨き上げを図ることにより、安定した雇用の拡大や地域の基幹産業の振興、知名度の向上を目指す。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	2.5 億円 (R4)	2.4 億円			R9 3 億円

※会計年度：7月～6月

主な取り組み		これまでの主な動き	
		取り組みの内容	主な成果・課題
顧客のニーズに合わせた生産体制の強化		・県版 HACCP 旧第 2 ステージ認証取得 (R 元) ・旧来の節納屋の雇用形態の見直し (R2) ・経営戦略の策定 (R2) → 産振アドバイザー制度の活用 ・焼津式乾燥機、煮熟設備の導入 (R3) → 産振補助金の活用 ・冷凍保管庫の導入 (R5) → 業務改善助成金の活用 ・外国人技能実習生の受入れ (R4: 2 名, R5 : 1 名, R6 : 1 名) ・小売商品の製造強化及び衛生管理強化に向けた施設整備 (R7) → 産振補助金の活用	【成果】 ・売上高 R2:1.5 億円 →R4:2.5 億円 →R5:2.9 億円 →R6:2.4 億円 ・「ラーメンにのせる宗田節オイル」高知家うまいちの大賞 優秀賞 受賞 (R3) ・「万能だし」美味アワード 2024 継承すべき和の食セット賞受賞 (R5) ・「宗田節味を育てるポン酢」美味アワード 2025 千趣会賞受賞 (R6) 【課題】 ・原魚の確保 ・商品開発 ・販路開拓 ・衛生管理の向上 ・小売商品の生産体制の強化
販売拡大・新商品の開発		・商品開発、改良の取り組み、EC サイトの活用 (R 元～) ・各種商談会・イベントへの出展 ・県の「食のイノベーション」を活用し、新商品を開発 (混ぜご飯、おかずみそ) (R6～) おかずみそ販売開始 (R7～)	

第5期計画における行程表						
事業概要			R6	R7	R8	R9
顧客のニーズに合わせた生産体制の強化 ■(有)ヤマア ・サハ節等の製造強化 ・小売商品の製造強化 ・衛生管理体制の強化 ・生産増に伴う雇用の確保（外国人技能実習生の受入れ） ・生産体制強化に向けた施設整備 □県（地域本部） ・各種セミナーの情報提供 ・各種支援策の提案				生産体制の強化	稼働開始	
販売拡大・新商品の開発 ■(有)ヤマア ・小売商品の開発 ・商談会、イベント等への出展 □県（地域本部） ・商談会等への情報提供 ・各種支援制度の活用提案				販売拡大	新商品開発・販売	

幡多地域アクションプラン

分野		水産業
AP 名 (実施地域)	No.9 宿毛湾の水産加工品等の販売拡大 (大月町)	
実施主体	◎八重丸水産(株)	
AP への位置づけ	H23.4月	
事業概要	大月町の地域資源の一つである水産資源を活用した加工商品等について、町内事業者や町内の道の駅との連携、商品力の強化及び県内外の展示商談会への参加等により販路拡大及び売上高向上を図る。これにより、町産水産資源の消費拡大、雇用拡大等につなげる。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	3,195万円 (R5)	2,982万円			3,500万円

※会計年度：9月～8月

主な取り組み	これまでの主な動き		主な成果・課題
	取り組みの内容		
販路拡大・販売促進	・加工場改修及び攪拌機器等整備（H23） → 産振補助金の活用 ・県内外展示商談会出展、商品のブラッシュアップ（H24） → 産振補助金の活用 ・県版 HACCP 旧第 2 ステージの認証取得（H29） ・食品ビジネス事業戦略の策定（H30） ・加工場改修及び冷蔵設備等整備（R3） → R2(R3 繰越)新型コロナウイルス対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用 ・生産設備の拡充（スライサー 購入）（R5） → 業務改善助成金の活用	【成果】 ・売上高 R 元：2,855 万円 →R5：3,195 万円 →R6：2,982 万円 ・商品仕入高 R 元：845 万円 →R5：1,024 万円 →R6：697 万円 ・「本マグロのホルモンカレー」が高知家のうまいもの大賞 2021 入賞（R2）	
新商品開発・既存商品の磨き上げ	・きびなごケンピの新商品アイテムの検討 ・きびなごロースト、本マグロのホルモンカレーの販売開始（R2） ・鯛めしの素、おさかなケンピの販売開始（R3）	【課題】 ・人材確保 ・原魚確保 ・既存商品の磨き上げ ・新商品開発 ・事業承継	

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
販路拡大・販売促進 ■八重丸水産（株） ・商談会出展 ・HACCP に沿った衛生管理 ・地域事業者と連携した新たな外商方法の検討 □県（地域本部） ・商談会、外商等に関する情報提供				商談会への出展 HACCP に沿った衛生管理 新たな外商方法の模索 新たな外商の展開	
新商品開発・既存商品の磨き上げ ■八重丸水産（株） ・既存商品の磨き上げ ・新商品開発 □県（地域本部） ・商談会や支援制度等の情報提供				既存商品の磨き上げ 新商品開発	

幡多地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.10 道の駅「すくもサニーサイドパーク」を拠点とした地域振興 (宿毛市)	
実施主体	◎ 宿毛市	
AP への位置づけ	R4.4 月	
事業概要	R5.5 月にリニューアルした道の駅「すくもサニーサイドパーク」を拠点として、地元特産品等の販売を促進するとともに、宿毛まちのえき「林邸」等との連携を通じて情報発信拠点としての機能強化を図り、交流人口の拡大と地域経済のさらなる活性化を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
道の駅「すくもサニーサイドパーク」を拠点とした誘客の促進	・道の駅「すくもサニーサイドパーク」実施設計（R3） → R3 観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・道の駅「すくもサニーサイドパーク」リニューアル（R5） → R4 地域観光振興交付金の活用 ・道の駅「すくもサニーサイドパーク」物産館」実施設計(R7) ・各種誘客イベント等の開催 月例イベントの開催（R5～） 土佐の豊穰祭 2024「肉フェス」開催（R6） 高知光のフェスタ 2024「サニーサイド・海辺のイルミネーションとだるま夕日」開催（R6） ・庁内プロジェクトチームによる「新たな道の駅」構想の検討（R5）	【成果】 ・道の駅「すくもサニーサイドパーク」の入込数 R2：65,500 人 →191,100 人 (R5.5～R6.3) →216,091 人 (R6.4～R7.3) 【課題】 ・顧客満足度の向上 ・キャンプエリアの利用率向上 ・リピーターの確保 ・市内飲食店等への誘客

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)売上高	2,126 万円※ (R5.5～R6.3)	1,913 万円			R9 3,150 万円
(2)レジ通過者数	1.9 万人※ (R5.5～R6.3)	2.0 万人			4.2 万人

※R5.5 月にリニューアルオープンのため、出発点は R5.5 月～R6.3 月とする。

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
施設整備及び体制強化 ■ 宿毛市 ・物産館整備に向けた事業計画の策定、実施設計、施設整備 ・出品者等との連携強化 ・運営状況等に関するミーティングの実施 □ 県(地域本部等) ・産振補助金ほか、各種支援制度に関する情報提供			計画策定・ 実施設計	施設 整備	施設 稼働
特産品等の販売促進 ■ 宿毛市 ・宿毛市推奨品認定制度を活用した特産品の PR ・市内の一次産品を活用した目玉グルメ商品の開発 ・道の駅グルメ全国コンテストへの出場 ・キッチンカー事業者と連携した季節ごとのイベント開催 □ 県(地域本部等) ・産振アドバイザー制度の活用提案			グルメ商品の開発	グルメ商品の販売	
道の駅を核とした市内周遊促進の強化 ■ 宿毛市 ・SNS 等を活用した情報発信の強化 ・人流データを活用したマーケティング分析 ・他団体と連携した周遊促進事業の実施 □ 県(地域本部等) ・プロモーション活動に伴う支援 ・各種支援制度に関する情報提供			イベントの開催	情報発信の強化	周遊促進事業の実施

幡多地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.11 道の駅「めじかの里土佐清水」を拠点とした地域振興 (土佐清水市)	
実施主体	◎ 土佐清水市	
AP への位置づけ	R4. 4 月	
事業概要	道の駅「めじかの里土佐清水」を拠点として、地元の農林水産物・加工品の販売や地域への誘客促進の取り組みを強化することにより、安定した雇用の拡大や地場産業の発展を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
道の駅「めじかの里土佐清水」を拠点とした誘客の促進	・新土佐清水市地場産品販売施設連携協議会発足（R3） ・道の駅食堂メニュー改良及び道の駅改修に関する検討（R3） → 産振アドバイザー制度の活用 ・道の駅「めじかの里土佐清水」リニューールオープン（R5） → R4 産振補助金の活用 ・各種誘客イベント等の開催・出店等（R5） 食のバザール土佐の豊穰祭 2023in 土佐清水開催 サイクルログイニング土佐清水 2023 開催 日曜市出店 他県の道の駅と連携した外商・誘客促進の企画 サニーマートとの連携によるフェアの開催 ふるさと納税へ出品 ・情報発信の強化 デジタルサイネージによる観光、特産品、交流イベント等の PR インスタグラム等の SNS による情報発信	【成果】 ・売上高 R3:5,071 万円 →R5: 1 億 1,707 万円 →R6: 1 億 1,800 万円 ・入込数 R3:7.2 万人 →R5:8.7 万人 →R6:8.5 万人 【課題】 ・誘客の促進 ・滞在時間の延長 ・観光拠点施設や地域事業者との連携

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)売上高	5,071 万円 (R3)	1 億 1,800 万円		R8	R9 1 億 7,596 万円
(2)入込数	7.2 万人 (R3)	8.5 万人			16.4 万人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
誘客促進の取り組みの強化 ■ 土佐清水市 ・新土佐清水市地場産品販売施設連携協議会の連携強化 ・直販所の品揃えの充実（生産者の掘り起こし） ・カフェ・食堂のメニュー開発 ・イベント等の企画・開催 道の駅が主催する誘客促進のイベント 県・市が開催するイベントとの連携 地域の事業者が実施するイベントとの連携 ・他県の道の駅と連携した外商の強化 ・ふるさと納税への出品 ・SNS 等を活用した情報発信の強化 □ 県（地域本部等） ・産振アドバイザー制度の活用提案 ・支援制度に関する情報提供					直販所の品揃えの充実 カフェ・食堂のメニュー開発 イベント等の企画・開催
滞在時間の延長に関する取り組みの強化 ■ 土佐清水市 ・新土佐清水市地場産品販売施設連携協議会の連携・取り組みの強化 ・品揃え、メニューの充実等による利用者の満足度の向上 ・観光拠点施設や地域事業者と連携したイベント等の企画・開催 ・周遊手段の検討、周遊ツアーの造成 ・土佐清水市全体の周遊促進に向けた情報発信 □ 県（地域本部等） ・関係機関への橋渡し ・産振アドバイザー制度の活用提案					滞在時間の延長に関する取り組みの強化

幡多地域アクションプラン

幡多地域アクションプラン		分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.12 売り出せ西土佐プロジェクト (四万十市)		
実施主体	◎ 西土佐地域産業振興推進協議会、地域事業者、四万十市		
AP への位置づけ	H22.4月		
事業概要	西土佐地域の多様な人材や事業者が連携・協働し、地域資源の有効活用や認知度向上を図る取り組みを推進することで交流人口を拡大するとともに、西土佐地域の産業振興を図る。		

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
西土佐地域の特産品の認知度・ブランドカの向上	取り組みの内容 - 西土佐地域産業振興推進協議会の設置（H30～） 「四万十川天然鮎のコンフィ」販売開始（H30） 「四万十川天然鮎のコンフィ缶詰」販売開始（R4） 「しまんと西土佐あゆみフェア」、「四万十にしとさ利き鮎会」の開催（R4～） 「四万十一デーかい鮎釣った人が優勝！グランプリ」の開催（R4～） - 四万十牛加工販売施設整備（R2） → R元(R2 繰越)産振補助金の活用 ・(株)四万十牛本舗が県版 HACCP 新第2ステージ認証取得(R6) ・「四万十冬肉祭」の開催（R7） ・「ガブッと米ナスキャンペーン」（H30～、アツいまちサミットコラボ事業） 「ナスフェア」の開催（H27～、アツいまちサミットコラボ事業） ・栗の加工施設の整備、氷感庫の導入 （株）しまんと美野里：H22）→ 産振補助金の活用 ・栗園を活用した学生向け地域学習プログラムの開発検討（R4） → 産振アドバイザー制度の活用 ・ふるさと納税やECサイトへの出品 ・商談会・イベントへの出席	【成果】 ・(株)西土佐ふるさと市の売上高 - R2：1億4,604万円 →R4：1億7,960万円 →R5：1億8,320万円 →R6：1億8,102万円 →R7：1億8,936万円 ・よって西土佐の入込数 - R2：約13万人 → R4：14万4千人 → R5：15万3千人 → R6：14万5千人 → R7：14万4千人 ・(株)四万十牛本舗の売上高 - R2：1億8,524万円 →R4：2億2,034万円 →R5：2億2,184万円 →R6：2億740万円 ・四万十牛の認知度向上 ・県内外の共進会・共励会への出席・受賞 - R4、R5、R6、R7
誘客促進・入込客増加に向けた各種イベントの企画・開催	・鮎や米ナス、BBQ 関連施設など西土佐地域のあらゆる資源を活用したイベント等の企画・開催 ・近隣市町村や道の駅と連携した周遊イベント等の開催 ・西土佐地域産業振興推進協議会の HP・インスタグラム作成と情報発信の強化（R3～） ・モニターツアー「半径3kmの旅」の実施（R4） ・西土佐地域産業振興推進協議会の HP の更新（R7） →四万十市産業振興推進総合支援事業費補助金の活用	【課題】 ・地域の人口（生産者）減少に伴う生産力低下の懸念 ・情報発信の強化 ・栗の収穫量の確保

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
(1)売上高 (道の駅よって西土佐)	2億 1,608 万円 (R4)	2億 1,914 万円	2億 3,046 万円		2億 2,800 万円
(2)売上高 (株)四万十牛本舗)	2億 2,034 万円 (R4)	2億 740 万円			2億 7,900 万円
(3)生栗出荷額 (JA 西土佐支所及び (株)しまんと美野里)	1,077 万円 (R4)	1,415 万円	3,364 万円		3,600 万円

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
西土佐地域ならではの商品のブランド化・販売促進 ■ 西土佐地域産業振興推進協議会、地域事業者 ・鮎 ：「しまんと西土佐あゆフェス」、「四万十にしとさ利き鮎会」等の開催 鮎漁の体験や意識調査、加工品の商品化、新商品の開発 ・四万十牛：県内外の品評会等への出品、牛舎の増築、商品開発 「四万十冬肉祭」の開催 ・米ナス ：「ナスフェス」、「ガブと米ナスキャンペーン」の開催 ・栗 ：栗産地再生に向けた取り組みの強化 ・各種PR用リーフレット等の作成 ・各種イベント、商談会等への出展による認知度向上・販路拡大の取り組み ・HACCPに沿った衛生管理 ・ブランド力向上に向けた情報発信の強化 ・マーケティング、商品開発等に携わる職員の育成 □ 県（地域本部等） ・各種支援制度の情報提供・活用支援、協議会の運営支援等					特産品の生産・加工・販売体制の強化 PR イベントや商談会等への出展による ブランド化・販売促進 HP 更新 情報発信の強化
誘客促進・入込客増加に向けた各種イベントの企画・開催 ■ 西土佐地域産業振興推進協議会、地域事業者 ・鮎や米ナス、BBQ 関連施設など西土佐地域のあらゆる資源を活用した イベント等の企画・開催 ・近隣市町村や道の駅と連携した周遊イベント等の開催 ・ツアープランの造成と受入態勢の強化 ・SNSの活用など、誘客促進に向けた情報発信の強化 ・イベント等の企画・運営に携わる職員の確保・育成 ■ 四万十市 ・協議会の運営支援、協議会メンバーの情報発信等の事業化に対する支援 □ 県（地域本部等） ・協議会の運営支援及びイベント企画・実施支援、関係機関への橋渡し				PR イベント等の企画・開催 HP 更新 情報発信の強化	

幡多地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No. 13 幡多地域の農水産物を活用したペット関連商品の開発・販売拡大 (四万十市)	
実施主体	◎(株)WAN LIFE	
AP への位置づけ	H28.4 月	
事業概要	幡多地域の農水産物を中心に、県産素材を使ったペット関連商品を開発し、地産外商を進めるとともに、幡多圏域へのペット連れ観光客の誘客促進やドッグラン複合施設の利用者等への販売促進により、地域経済の活性化を図る。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	5,760 万円 (R4)	4,628 万円			R9 1 億円

※会計年度：9 月～8 月

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
商品開発・販路拡大	・ペット用おやつ商品の開発（H28～） ・ギフトセットの開発（H28）→ 産振アドバイザー制度の活用 ・写真の撮り方の研究、HP リニューアル、SNS 活用強化（H29） → 産振アドバイザー制度の活用 ・製造機器導入（H29） ・生産工程及び受注工程の効率化（H30） → 産振アドバイザー制度の活用 ・ネコ用商品の開発に着手（R 元）→ 産振アドバイザー制度の活用 ・新施設（ドッグラン複合施設）オープン（R4） → R3 新事業チャレンジ支援事業費補助金の活用	【成果】 ・商品の充実 おやつ:13 商品 イヌ用スーブ: 2 種類 ・ドッグラン複合施設のオープン等による売上高の増 - R2(暦年):3,522 万円 →R4(暦年): 4,576 万円 →R5:(9～8 月) 4,133 万円 →R6:(9～8 月) 4,628 万円 【課題】 ・商品開発、販路拡大 ・人手不足

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
ペット関連商品の開発・磨き上げ ■(株)WAN LIFE ・市場調査、試作品作り、原料調達方法の検討、商品開発・磨き上げ □県（地域本部等） ・商品開発等に関する産振アドバイザー制度や補助金の活用を提案					商品開発・磨き上げ
販路拡大及び新事業の検討 ■(株)WAN LIFE ・ネコ用商品：自社 HP での情報発信、商談会やイベント等への出展 ・イヌ用商品：海外展開の検討（貿易に関するセミナー等でのノウハウの取得、海外市場の情報収集、海外向け商談会への出展） □県（地域本部等） ・新事業展開（ペットと泊まれる宿）の検討 ・販路拡大等に関する産振アドバイザー制度の活用を提案 ・商談会や各種支援制度の情報提供			HP の 拡充		情報発信
					商談会等への出展
					新事業や海外展開の検討、実施

幡多地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.14 幡多地域産品を活用した冷凍加工食品の開発・製造・販売の推進 (四万十市)	
実施主体	◎(有)和	
AP への位置づけ	H28.4 月	
事業概要	地域色豊かな食材を活用した加工食品を開発・製造・販売することで、食材自体の認知度を向上させ、生産者の所得向上を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
商品開発及び改良	・地域素材を利用した冷凍餃子の開発 (H28) ・調味料等の商品開発 ・県内事業者等と共同での商品開発及び OEM 受注 ・土佐 MBA アドバンスコース等の受講 (H28、H30、R 元)	【成果】 ・売上高 R2：1,444 万円 → R4：1,965 万円 → R5：1,859 万円 → R6：1,975 万円
販路拡大	・自社 HP 開設 (R3) ・通販 (まると高知 OnlineShop) の開始 (R3)	【課題】 ・人手不足(商品開発・営業担当) ・OEM 商品の開発・販売促進
生産体制の強化・充実	・新たな施設整備に向けた検討 (R 元～)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	1,965 万円 (R4)	1,975 万円			R9 3,000 万円

※会計年度：6 月～5 月→4 月～3 月に変更 (R6 実績～)

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
OEM 商品の開発強化 ■(有)和 ・県内外事業者との連携による OEM 商品の共同開発及び受託開発 □県 (地域本部等) ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用提案 ・各種支援制度に関する情報提供					OEM 商品の開発
外商の強化 ■(有)和 ・商談会等への出展 ・県内外事業者との連携による OEM 商品の販売拡大 □県 (地域本部等) ・商談会や各種支援制度等の情報提供					商談会等への出展
人材の確保 ■(有)和 ・新たな人材の雇用・育成 □県 (地域本部等) ・土佐 MBA 等講座の紹介 ・各種支援制度の情報提供					人材確保・育成
加工販売拡大に向けた事業計画等の検討 ■(有)和 ・新たな事業計画 (施設整備を含む) の検討 □県 (地域本部等) ・産振補助金の活用 の検討 ・その他各種支援制度の情報提供					事業計画等の検討

幡多地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.15 地元食材を活用した加工品の開発・製造による地産地消・外商の推進 (四万十市)	
実施主体	◎(有)四万十食品	
AP への位置づけ	R5.4 月	
事業概要	新たに整備した施設・設備を活用し、地元食材を使用した新商品の開発や既存商品の増産による販売拡大を図ることにより、生産者等の所得向上や雇用の創出を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化	・新工場の建設、機械設備の導入 (R5) → 産振補助金の活用	【成果】 ・雇用の創出 従業員 R4：16 名 →R5：17 名 →R6：23 名
商品開発・販路開拓	・四万十の海苔など地元食材を使用した商品開発 ・ふるさと納税への出品 (H29～) ・商談会への出展 ・自社ロゴマークのリニューアル (R5) ・HP、SNS の開設 (R6) ・公式オンラインストア開設(R7)	【課題】 ・生産体制の確立 ・人材の確保・育成 ・自社商品のブランド化 ・ターゲットを見据えた自社商品の開発及び販売戦略の確立

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	3 億 625 万円 (R5)	2 億 8,916 万円：3 億 928 万円			R9 3 億 9,264 万円

※会計年度：9 月～8 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
生産体制及び衛生管理体制の強化 ■(有)四万十食品 ・新たな人材の確保・育成 ・HACCP に沿った衛生管理 □県（地域本部等） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し			生産体制の確立		人材確保・育成 HACCP に沿った衛生管理
既存商品の増産、新商品の開発による販路開拓 ■(有)四万十食品 ・商品開発担当者や営業担当者の育成 ・既存商品の増産、新商品開発依頼への対応 ・自社商品の開発、新たな原材料の確保 ・ターゲット別の商談会等への出展 □県（地域本部等） ・商品開発に関する産振アドバイザー制度の活用を提案 ・商談会等の情報提供				既存商品の増産 新商品開発依頼への対応 自社商品の開発、販売 商談会等への出展 自社商品の PR、情報発信	

幡多地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.16 道の駅「ふれあいパーク・大月」を拠点とした産業振興と賑わいの創出 (大月町)	
実施主体	◎（一財）大月町ふるさと振興公社、大月町	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	道の駅「ふれあいパーク・大月」を町全体の産業振興と賑わい創出の拠点と位置付け、町内事業者等と連携しながら、農林畜水産品や加工品の開発・販売などの地産地消・外商を推進するとともに、町内外から人が集う交流の場を提供し、持続可能なまちづくりと地域の活力向上を目指す。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)売上高	2 億 3,655 万円 (R4)	2 億 2,089 万円			2 億 8,000 万円
(2)入込数	18.6 万人 (R4)	16.5 万人			19.5 万人

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地 場 産 品 の 販 売 促 進、特産品の開発・販売の強化	- 加工施設整備、ネット通販、カタログ販売の仕組みづくり及び商談会出席（H21～22） → 産振補助金の活用 - 商品力の強化（H26） → 産振アドバイザー制度の活用 - 通販サイトのリニューアル（H30） → 産振アドバイザー制度の活用 - 目指せ！弥太郎 商人塾 in 幡多の受講（H30） 「大月町地産外商推進協議会」への参画（R5） - 産直市及びふるさとセンターの改善・活用に係る施設改修案の検討（R6） → 産振アドバイザー制度の活用 - 指定管理者大月町ふるさと振興公社の組織強化（R7） → 産振アドバイザー制度の活用 - 道の駅施設改修に係る方針案の検討（R7） → 産振アドバイザー制度の活用	【成果】 「道の駅」来客数 R2：17.9 万人 →R4：18.6 万人 →R5：17.8 万人 →R6：16.5 万人 - 売上高 R2：2.04 億円 →R4：2.36 億円 →R5：2.30 億円 →R6：2.21 億円 - 雇用者数 R2:18 人⇒R6:29 人
賑わいの創出	- ふれあい市出品者協議会の設立 - 各種イベントの企画・開催 - おつきふれあいマーケット（月 1 回） （ふれあい市出品者協議会共催） - もちろしまつり（備長炭の PR・販売促進） 「マグロのまち大月」の PR 他	【課題】 - 外商の推進 - 新商品開発 - 産直市の改善 - ふるさとセンターの活用 - 加工施設の不足 - イベント企画 - 人材の確保、育成

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
地場産品の販売促進、特産品の開発・販売の強化					
■（一財）大月町ふるさと振興公社					
・「大月町地産外商推進協議会」と連携した外商の推進					
・商談会への出展					
・既存商品の改良					
・新商品の開発					
・道の駅施設改修に係る施設改修案の検討及び関連協議					
■ 大月町					
・道の駅施設改修に係る施設改修案の検討及び設計業務					
□県（地域本部）					
・支援制度の情報提供					
賑わいの創出					
■（一財）大月町ふるさと振興公社					
・町内事業者や他の道の駅等との連携によるイベントの企画・開催					
moreover（備長炭の PR・販売促進）					
「マグロのまち大月」の PR　　他					
・各種イベント等の情報発信					
■ 大月町					
・連携イベント開催等に向けた他事業者等との調整					
□県（地域本部）					
・支援制度の情報提供					

幡多地域アクションプラン

幡多地域アクションプラン		分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.17 三原村のどぶろくによる地域活性化 (三原村)		
実施主体	◎土佐三原どぶろく合同会社		
AP への位置づけ	H28.4月		
事業概要	地域の特産品である「どぶろく」にかかる村内の組織体制を強化し、地域が一 体となって販売促進を図ることで地域活性化につなげる。		

主な取り組み	これまでの主な動き	主な成果・課題
販売促進	取り組みの内容 ・新商品開発に向け、先進地視察を実施 (R2) ・商品開発やネット販売に関するノウハウの習得 (R2) → よろず支援拠点アドバイザーの活用 ・「甘酒」の販売を開始 (R2) ・「甘酒」の製造拡大に向け加工場を整備 (R2) ・「甘酒」のパウチタイプの販売 (R3) ・HP 及び EC サイトの開設 (R3) ・Instagram アカウントの開設 (R3) ・製造・販売機能の集約 (R4) ・HACCP 対応に向けた共同製造施設の整備 (R4～R5) → R4 事業再構築補助金の活用 ・HACCP 専門家派遣・書類作成指導の受講 (R4～) ・まろごと高知でのテストマーケティング (R5) ・ブランドینگ・広告作成・販促方法にかかるノウハウの習得、新酒お披露目イベントの企画・実施 (R5) → 産振アドバイザー制度の活用 ・地域おこし協力隊の受入れ 1 名 (R6) ・県版 HACCP 新第 2 ステージの認証取得 (R6) ・商談会出展に向けた PR 手法等の習得 (R7) → 高知県産業振興センター 専門家指導の活用 ・EC サイト、SNS での情報発信のノウハウ習得 (R7) → 産振アドバイザー制度の活用	【成果】 ・新商品開発 R2～R5：11 品 R6：6 品 ・ダムを活用（どぶろくを貯蔵）した地域振興の取り組みが「四国地方整備広報企画委員長特別賞」を受賞（R2） ・甘酒が「高知県地場産業大賞 奨励賞」を受賞（R3） ・雇用の創出 H27：0 人 → R3：1 人（パート） → R5：1 人（パート） 【課題】 ・販売促進活動の強化 ・安心安全な製品供給に向けた衛生管理 ・社員の高齢化 ・三原村のどぶろく文化の継承・発信

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	1,651 万円 (R 4)	1,703 万円			3,290 万円

※会計年度：6月～5月

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
新商品の開発による販路拡大 ■ 土佐三原どぶろく(同) ・市場調査、テストマーケティング ・新商品の開発 □ 県(地域本部等) ・商品開発に向けた産振アドバイザー制度等の活用提案		新商品開発		販売
販売促進 ■ 土佐三原どぶろく(同) ・県内外の商談会・イベントへの出展 ・飲食店・小売店等への営業によるどぶろく取扱店の掘り起こし ・HACCP に沿った衛生管理 ・事務作業の効率化・省力化 ・後継者の確保・育成 □ 県(地域本部等) ・販売促進に向けた産振アドバイザー制度等の活用を提案 ・県内外の商談会や販路に関する情報の提供、関係者への橋渡し ・各種支援制度やセミナー等の情報提供		商談会・イベントへの出展 どぶろく取扱店の掘り起こし HACCP に沿った衛生管理 事務作業の省力化・効率化		
誘客促進に向けたどぶろく関係企画の実施 ■ 土佐三原どぶろく(同) ・どぶろく関係企画の提案・実施、各種イベントとの連携 ・農家民宿・農家食堂と連携した村内への呼び込み強化 □ 県(地域本部等) ・各種支援制度に関する情報提供				どぶろく関係企画の提案・実施

幡多地域アクションプラン		
分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.18 黒潮町産天日塩を活用したビジネスの推進 (黒潮町)	
実施主体	◎(有)ソルティープ	
AP への位置づけ	H28.4 月	
事業概要	黒潮町の代表的な特産品のひとつである天日塩の販売促進を図り、雇用の創出や地域の所得向上につなげる。また、塩づくり体験事業を通じて天日塩の認知度の向上を目指す。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高※	3,150 万円 (R4)	4,574 万円			4,072 万円

※会計年度：3 月～2 月

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
販路開拓・販売促進	- 看板設置 (H28) → 観光拠点整備事業の活用 - 販促ツール作成 (H28) → 小規模事業者持続化補助金の活用 - ホームページ作成 (H29) → 黒潮町産業振興推進事業費補助金の活用 - 灘製塩所の結晶ハウス整備 (R 元) → 産振補助金の活用 - 灘製塩所の採かん施設の改築及び結晶ハウスの増築 (R4) → 産振補助金の活用 - リーフレット作成 (R5)	【成果】 ・製塩量 H30：7.0 トン → R4：8.0 トン → R5：9.1 トン → R6：10.6 トン ・売上高 H30：2,195 万円 → R4：3,150 万円 → R5：3,991 万円 → R6：4,574 万円 ・塩づくり体験受入数 H30：520 人 → R4：551 人 → R5：325 人 → R6：304 人
人材確保	・OJT による製塩技術者の育成	【課題】 ・需要に対して生産量が不足 ・人材育成 ・新規顧客の獲得 ・衛生管理の向上

第5期計画における行程表						
事業概要			R6	R7	R8	R9
販路開拓・販売促進 ■(有)ソルティープ ・天日塩の増産 ・佐賀製塩所採かん施設の補修 ・商談会への出展を通じた販路開拓 ・HACCP に沿った衛生管理の実施 ・塩づくり体験の受入れ □県（地域本部等） ・関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供						天日塩の増産
						商談会等への出展
						HACCP に沿った衛生管理
人材確保・育成 ■(有)ソルティープ ・人脈等を活用した後継者の確保、OJT による育成 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供						
						OJT による人材（担い手）育成

幡多地域アクションプラン

分野		商工業
AP 名 (実施地域)	No.19 黒潮町産天日塩の販売拡大及び地域ブランド化の推進 (黒潮町)	
実施主体	◎ 土佐のあまみ屋、黒潮町商工会	
AP への位置づけ	R3.4 月	
事業概要	新たな採かん施設・結晶ハウスを活用し、天日塩の生産拡大による販売促進に取り組むとともに、黒潮町商工会を中心として「地域ブランド化」を推進することにより、黒潮町産の天日塩全体の販売拡大と知名度の向上を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
生産体制の強化及び販路拡大	・販売促進の手法・地域ブランド化の検討（R2） → 産振アドバイザー制度の活用 ・土佐 MBA ナリワイセミナーの受講（R2） ・ネット通販の開始（R3） ・黒潮町ふるさと納税返礼品に登録（R3） ・パンフレットリニューアル（R4） ・採かん施設の増築及び結晶ハウス内の結晶箱の増設（R4） → 産振補助金の活用	【成果】 ・製塩量 R3：10.9トン → R4：11.4トン → R5：11.0トン → R6：10.3トン → R7：9.3トン ・売上高 R3：2,859万円 → R4：3,062万円 → R5：2,736万円 → R6：3,237万円 → R7：3,371万円
地域ブランド化の推進	・黒潮町及び黒潮町商工会による町内天日塩事業者への説明・働きかけの実施（R3～R4） ・町内天日塩事業所のプロモーションビデオの作成（R2～R5） → 伴走型小規模事業者支援推進事業の活用	【課題】 ・人材育成 ・新規顧客の獲得 ・衛生管理の向上 ・需要に対し生産量が不足

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
売上高※	3,062万円 (R4)	3,237万円	3,371万円		3,843万円

※会計年度：1月～12月

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
生産体制の強化及び販路拡大 ■ 土佐のあまみ屋 ・天日塩の増産、新商品開発の検討 ・商談会への出席を通じた販路開拓 ・HACCP に沿った衛生管理の実施 ・結晶ハウスの増設検討 □ 県（地域本部等） ・関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供				天日塩の増産	
				商談会等への出席	
				HACCP に沿った衛生管理	
				結晶ハウスの増設検討	
地域ブランド化の推進 ■ 黒潮町商工会 ・町内事業者への働きかけ ・各種認証制度への登録の検討				町内事業者への働きかけ	

幡多地域アクションプラン		
	分野	商工業
AP 名 (実施地域)	No.20 黒潮町の地域資源を中心とした防災関連商品づくりの推進 (黒潮町)	
実施主体	◎(株)黒潮町缶詰製作所、黒潮町	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制の充実・強化に取り組み、「地産」・「地消」・「外商」を推進することで、雇用機会の創出及び地域生産者の所得向上につなげていく。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	1 億 589 万円 (R4)	1 億 1,118 万円			1 億 1,000 万円

主な取り組み		これまでの主な動き		主な成果・課題	
		取り組みの内容			
施設・体制の充実強化		・加工場整備、稼働 (H26) ・(株)黒潮町缶詰製作所 (第三セクター) 設立、黒潮町特産品開発推進協議会の事業を継承 (H26) ・HACCP アドバイザー制度の活用 (H29) ・県版 HACCP 旧第 3 ステージ認証取得 (H31) ・衛生管理の強化等に向け、地域おこし協力隊を 1 名雇用 (R5) ・県版 HACCP 新第 2 ステージ認証取得(R6)		【成果】 ・「高知家うまいもの大賞 2019 審査員特別賞」受賞 (H30) ・「高知家うまいもの大賞 2024 高知家賞」受賞 (R5) ・「高知家うまいもの大賞 2025 SDGs 賞」受賞 (R6) ・「デイスカバー 農山漁村 (むら) の宝」地方奨励賞 受賞 (R6)	
商品開発・販路開拓		・高知県防災関連製品認定 (H27) ・地域資源を活用したアレルゲンフリーの新商品・OEM 商品の開発 ・ホームペーシリアル (H29) → 黒潮町産業振興推進事業費補助金の活用 ・中期事業戦略を策定 (R 元～) → 産業振興センター事業戦略策定支援制度の活用 ・ホームペーシリアル(R6) ・(株)フタガミと連携した「防災缶詰・にげるプロジェクト」の始動(R6)及び「防災缶詰 にげる(鯉ドライカレー)」の販売開始(R7)		【課題】 ・物価高騰 ・衛生管理の強化 ・工場移転に伴う施設整備	

第 5 期計画における行程表						
事業概要		R6	R7	R8	R9	
施設・体制の充実強化 ■ (株)黒潮町缶詰製作所 ・工場移転に伴う施設整備 ・HACCP に沿った衛生管理の実施 □県（地域本部等） ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し		用地取得	設計	工事	施設稼働	
		HACCP に沿った衛生管理				
商品開発・販路開拓 ■ (株)黒潮町缶詰製作所 ・自社商品の開発・強化 ・OEM 商品の開発 ・海外輸出の検討 □県（地域本部等） ・産振アドバイザー制度の活用提案 ・各種支援制度の情報提供、関係機関への橋渡し						
		新商品の開発・既存商品の改良				
		商談会・展示会への参加				

幡多地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.21 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進 (幡多地域全域)	
実施主体	(一社)幡多広域観光協議会	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	「幡多広域観光振興計画（第Ⅱ期計画）」に基づき、マーケティング機能を強化し、データに基づくエリアプロモーションを実施することで幡多地域全体への宿泊者数の増加を目指す。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
商品造成・誘客促進	- 既存商品の磨き上げ支援、新規商品の開発支援 - 旅行会社へのセールの推進 「はた旅クーポン（R2）、ENJOY！（はた旅クーポンⅡ（R3）の実施 - 外国人観光客向け商品の造成 「観光×SDGs」の取り組み推進 - 観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」認証ラベル・ロゴマーク使用許可を取得（R3） - 広報・PR - ガイドブック制作・配付 - 観光 PR イベントへの参加 - 説明会、商談会への参加 - GSTC サステイナブルツーリズム研修修了(R5：1 名、R6：2 名、R7:1 名) 4 名	【成果】 - 延べ宿泊者数 - R2：319,790 人 →R4：389,589 人 →R5：365,360 人 →R6：410,420 人 - 顧客ニーズに対応し、誘客力の高い体験商品造成 - はた旅体験 (R5) - 商品数：97 商品 - 利用者数：37,199 人 (R6) - 商品数：89 商品 - 利用者数：36,023 人 「観光×SDGs」の取り組みを推進 - 商品造成：7 件（R4）1 件（R5）1 件（R6） - 第 17 回エコツーリズム大賞特別賞受賞（R3）
受入体制の強化	- 日本版 DMO 登録（H31.3 月） 「幡多広域観光振興計画（第Ⅱ期計画）」の策定（R2） - 研修会、民泊説明会等の開催 「幡多広域観光振興計画（第Ⅲ期計画）」の策定（R8.3 月予定）	【課題】 - インバウンド対応の強化 - 教育旅行（民泊）の受入家庭の確保

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)延べ宿泊者数	389,589 人 (R4)	410,420 人			R9 479,000 人
(2)外国人延べ宿泊者数	2,318 人 (R4)	17,412 人			18,700 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
地域の魅力創出・セールの推進 ■(一社)幡多広域観光協議会 ・SDGs を切り口とした体験プログラムの充実 ・長期滞在型観光の推進やインバウンド施策の強化 ・旅行会社等へのセールの推進 □県 ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供					商品化支援による地域の魅力創出の推進
地域認知度向上・プロモーションの推進 ■(一社)幡多広域観光協議会 ・「幡多地域」のリブランディング、広報・PR によるブランドの浸透 ・デジタルメディア（HP、SNS 等）の活用促進 □県 ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供					旅行会社等へのセールの推進 ブランド形成による地域認知度向上の推進 マーケティングデータに基づくプロモーションの推進
来訪者満足度を向上させるための地域受入体制整備を推進 ■(一社)幡多広域観光協議会 ・広域に関わる観光周遊企画の立案・情報提供・発信の推進 ・広域観光に関わる地域の受入体制基盤強化 ・研修会等の開催 ・教育旅行における田舎暮らし体験（民泊）の受入促進 □県 ・産振アドバイザー制度の活用提案、各種支援制度に関する情報提供					受入体制の強化

幡多地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.22 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (幡多地域全域)	
実施主体	◎（一社）幡多広域観光協議会、幡多6市町村及び観光協会等	
AP への位置づけ	H27.9月	
事業概要	土佐西南大規模公園のスポーツ施設を核とし、幡多広域におけるスポーツと体験型観光を融合させたスポーツツーリズムを推進することにより、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図る。	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
延べ宿泊者数	19,038人 (R4)	17,202人			20,000人

これまでの主な動き		主な成果・課題
取り組みの内容		
主な取り組み	受入体制の充実・強化	【成果】 ・人工芝グラウンド完成（H29） ・ワンストップ窓口機能の整備・運用（H28～） ・旅館組合、集落活動センター等と連携した宿泊受入体制の整備（H28～） ・スポーツ＋体験観光をセットにした観光商品の造成及び受入体制の整備（H28～） ・砂浜トレーニングのプログラム作成、更新 ・新型コロナウイルス感染症対策の実施（R2～ 受入運営ガイドラインの作成、更新）
	誘客促進の取り組み	【課題】 ・スポーツ施設を紹介するポータルサイトを開設（H28～） ・スポーツ大会・合宿のセールス及び受入 ・アドバイザーを活用したセールスプロモーション（H29～） ・砂浜トレーニングのプログラム作成、更新（R2～） → 産振アドバイザー制度の活用 ・アドバイザーを活用した誘客促進（R6～）

第5期計画における行程表						
事業概要			R6	R7	R8	R9
スポーツ施設や宿泊施設等との連携による受入体制の充実・強化 ■（一社）幡多広域観光協議会 ・市町村・観光協会等との連携 ・ホームページを活用した管内スポーツ施設や大会・合宿の情報提供 ■（一社）黒潮町観光ネットワーク ・関係事業者や集落活動センター等と連携した受入体制の充実・強化 ■（特非）NPO 砂浜美術館 ・スポーツツーリズム推進会議の開催等 ■ 幡多6市町村及び観光協会等 ・スポーツ合宿・大会等の誘致及び受入体制の充実・強化 □県（地域本部等） ・協議会や推進会議への参画によるアドバイス ・産振アドバイザー制度の活用提案や各種支援制度に関する情報提供						受入体制の充実・強化
セールス活動等による誘客促進の取り組み ■（一社）幡多広域観光協議会、幡多6市町村及び観光協会等 ・アドバイザーを活用した合宿やサッカー大会のセールスプロモーション及び企画運営 ・スポーツ合宿と観光を組み合わせた新たな周遊プランの構築を検討 ・スポーツ合宿参加者の移動（宿舎と施設の往復等）に係る支援策の検討 ■（特非）NPO 砂浜美術館 ・大会の運営、市町村及び関係団体との連携 ・関西を中心とした西日本や関東・東北・北海道等の東日本エリアへのセールス活動の展開 □県（地域本部等） ・観光コンベンション協会、市町村等と連携したセールス活動支援 ・各種支援制度やスポーツツーリズムに関する情報提供						PR・セールスプロモーション活動
						周遊プランや支援策の充実・強化

幡多地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.23 宿毛市の地域資源を活用した観光振興 (宿毛市)	
実施主体	◎(一社)宿毛市観光協会、宿毛市	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	地域の観光推進体制を強化し、宿毛市の資源を活用した体験型観光商品の造成に取り組みとともに、幡多地域全体で連携して誘客を促進することにより、交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
体験メニュー充実に向けた環境整備・推進体制の強化	・土佐の観光創生塾の受講 (H28～R4) ・宿毛まちのえき「林邸」のオープン (H30) → 歴史観光資源等強化事業の活用 ・電動アシスト自転車、カヤック等の整備 (H30) → 観光拠点等整備事業の活用 ・クライミングコース、サイクリングロードの整備 (R 元) → 観光拠点等整備事業の活用 ・宿毛市総合運動公園にマウンテンバイク専用コースを整備 (R2～R4)	【成果】 ・宿泊客数 (暦年) R2：7.1 万人 →R4：9.0 万人 →R5：9.3 万人 →R6：9.0 万人 ・「林邸」来場者数 R2：12,685 人 →R5：27,095 人 →R6：27,910 人 【課題】 ・関係団体や地域住民と連携した体験メニューづくり ・広域的な周遊観光に向けた取り組み ・リピーターの確保及び魅力あるイベントの実施等による誘客促進 ・顧客満足度の向上
誘客促進の取り組み	・宿毛まちのえき「林邸」での展示会・ワークショップ等イベント開催 (R2～) ・地元の食を活かしたライドイベント「まんぷくライド」開催 (R2～) ・レンタサイクル利用者への飲食クーポン券配布 (R2～) ・JCL (ジャパンサイクルリーグ) ロードレース開催 (R4～R5) ・釣りイベント、横瀬川ダムクライミングウオール体験、歴史館と連携した散策ツアーほか ・どっぶり高知旅キャンペーンに即応した周遊促進事業の開催(R7) → 周遊促進・滞在延長支援事業費補助金の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	R9
市内の延べ宿泊客数※	9.0 万人 (R4)	9.0 万人			10.3 万人

※1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
観光人材の育成 ■(一社)宿毛市観光協会、宿毛市 ・幡多広域観光協議会と連携した観光人材のスキルアップ □県(地域本部等) ・支援制度の情報提供、参加者への周知及びフォローアップ 地域の特性や資源を活かした体験型プログラムの造成・磨き上げ ■(一社)宿毛市観光協会、その他連携事業者、宿毛市 ・食や自然、歴史・文化を活用した周遊・体験型プログラムの造成・磨き上げ ・中山間地域を含めた事業者間の連携強化 □県(地域本部等) ・施設整備及び備品購入のための支援策の検討 ・関係機関の橋渡し					観光人材の育成
					体験型プログラムの造成
					既存商品の磨き上げ
誘客促進の強化 ■(一社)宿毛市観光協会、その他連携事業者、宿毛市 ・幡多広域観光協議会と連携した誘客促進の強化 ・宿毛まちのえき「林邸」を拠点とした観光・交流事業の企画・実施 ・地元の特産物を活用したイベントの企画・実施 ・フィッシングやサイクリング、マリンアクティビティを中心とした誘客促進の強化 ・プロモーション活動の強化 □県(地域本部等) ・プロモーション活動に伴う支援 ・各種支援制度の情報提供					広域連携による誘客の促進
					プロモーション活動の強化

幡多地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.24 土佐清水まるごと戦略観光の展開 (土佐清水市)	分野 観光
実施主体	◎土佐清水市、(一社)土佐清水市観光協会、 (一社)土佐清水ジオパーク推進協議会	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、ジオツーリズムをはじめとした体験型観光や国際観光等の誘客・促進の強化と受入態勢の整備・充実を図るとともに、幡多地域全体での誘客・周遊促進に取り組むことにより、滞在日数の増加や消費の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
誘客の促進	・電串観光の情報発信・認知度向上 (H23) →産振補助金の活用	【成果】 入込数の増加 R2:63万人 →R4:66.1万人 →R5:68.6万人 →R6:61.6万人 →R7:65.7万人 ジオガイド登録者 R2:28名 →R4:27名 →R5:28名 →R6:35名 →R7:34名 ジオツアーの販売件数、 販売額 R2:23件、159,600円 →R4:34件、 322,200円 →R5:48件、 364,000円 →R6:30件、 68,500円 →R7:16件、 78,500円 【課題】 ・誘客、宿泊の促進 ・地域資源の磨き上げ ・市街地・電串・足摺の全域に周遊を促す体制づくり
	・ジョン万次郎資料館リニューアルオープン (H30.4月) → H29 観光拠点整備補助金の活用	
	・スノーピーク土佐清水キャンプフィールドオープン (H31.4月) → H30 観光拠点補助金の活用	
	・「SATOUMI」のプロモーション活動の活性化に向けた外部人材の活用 (R元～R2) →産振補助金の活用	
	・「電串デジタルセンターうみのわ」オープン (R2.3月)	
	・県立足摺海洋館「SATOUMI」リニューアルオープン (R2.7月)	
	・土佐清水ジオパーク日本ジオパーク認定 (R3.9月)	
	・道の駅めじかの里土佐清水リニューアルオープン (R5.4月)	
	・天狗の鼻整備 (観光資源磨き上げ、誘客促進策) (R5.12月供用開始)	
	→ 観光振興推進総合支援事業費補助金の活用	
	・各種誘客イベント等の開催 足摺宇和海国立公園 50周年記念事業 (R4) あしずりまつり、ジョン万ウォーク、足摺きり、産業祭 等	
	・推進体制・計画の調整 土佐清水市観光マスタープラン策定 (H28)	
	足摺宇和海国立公園電串エリア利用計画を進める会の発足 (R元計画策定)	
	足摺宇和海国立公園足摺岬エリア利用計画を進める会の発足 (R2計画策定)	
	電串の観光を考える会発足 (R3)	
	土佐清水市ジオパーク基本計画策定 (R4)	
	土佐清水ジオパーク再認定 (R7)	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
入込数※	66.1万人 (R4)	61.6万人	65.7万人		75万人

※1月～12月

第5期計画における行程表						
事業概要			R6	R7	R8	R9
環境整備 ■土佐清水市 ・足摺岬展望台改修計画の検討 ・中心市街地・竜串・足摺の全域への周遊を促す仕組みの検討・磨き上げ ■県（地域本部等） ・情報提供、関係機関への橋渡し						展望台改修計画の検討
誘客の促進・情報発信 ■土佐清水市 ・市内全域への周遊を促す仕組みの検討・磨き上げ ・秋冬観光資源の磨き上げ ・インバウンド観光誘客のための受入環境の充実 ・ジョン万トラベルキャンペーン地域電子通貨 Meji-Ca の旅行支援事業 ■（一社）土佐清水市観光協会 ・周遊促進に向けた体験メニューの充実 ・HP、SNS を活用した情報発信の強化 □県（地域本部等） ・産振アドバイザー制度や各種支援策等の情報提供、関係機関への橋渡し						地域資源の磨き上げと誘客促進
						周遊促進
日本ジオパークネットワーク再認定 ■土佐清水市、（一社）土佐清水ジオパーク推進協議会 ・情報発信、市民への普及啓発 ・ジオパーク再認定 ・ジオガイドの育成及びスキルアップ、ジオツアーの造成 ・受入態勢の充実 ■県（地域本部等） ・各種支援策の情報提供				ジオパーク再認定		ジオツーリズムの推進

幡多地域アクションプラン		
分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.25 四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進 (四万十市)	
実施主体	◎四万十市、(一社)四万十市観光協会	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期（秋・冬）にも誘客できる通年型観光に取り組むことにより、宿泊者数の増加を図るとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地域資源を生かした体験型観光の推進	・各種イベント等の開催 四万十川花紀行関連イベント、広域連携サイクルイベント、しまんとリバーベキュープロジェクト（R2～R4）等 ・地域資源磨き上げのための環境整備 四万十ひろばカヌー館オートキャンプ場の整備（R元） → 地域観光振興交付金の活用 BBQ 施設の整備（R3） → 観光振興推進総合支援事業費補助金の活用 いやしの里空調改修、ふるさと案内所トイレ改修（R4） → 地方創生臨時交付金の活用 ・移動手段の確保（H28～） 予土線でのサイクルトレイン四万十号の運行 四万十川バス、周遊観光バスしまんと・あしずり号等の運行 四万十川バス通年運行（R7～）	【成果】 ・四万十市への観光客入込数 R2：100.4 万人 →R4：104.5 万人 →R5：111.0 万人 →R6：112.5 万人 【課題】 ・観光ニーズ多様化への対応 ・自然体験型観光の推進 ・閑散期対策 ・観光人材の育成、確保
観光推進体制の強化	・各種協議会等の開催・運営 四万十市観光振興連絡会議、西土佐観光推進協議会 予土県境地域連絡協議会 ・人材育成 SNS 活用講座の開催（R2）→ 産振アドバイザー制度の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
公共観光施設利用者数※	155,654 人 (R4)	146,644 人	146,149 人		170,000 人

※1 月～12 月

第 5 期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
自然体験型観光の推進			誘客促進		
■(一社)四万十市観光協会、四万十市 ・各種誘客イベント等の企画、運営 ・二次交通との連携等によるしまんとリバーベキューの取組強化 □県（地域本部等） ・産振アドバイザー制度の活用提案 ・各種支援制度に関する情報提供			環境整備、二次交通の充実		
周遊・滞在しやすい環境の整備			観光案内機能の充実		
■(一社)四万十市観光協会、四万十市 ・既存拠点施設の改修・拡充、Wi-Fi 環境の整備 ・二次交通の充実 ・多言語化など観光案内機能の充実 □県（地域本部等） ・各種支援制度に関する情報提供					
連絡協議会等による事業の磨き上げ			協議会等による観光事業の実施		
■(一社)四万十市観光協会、四万十市 ・四万十市観光振興連絡会議、西土佐観光推進協議会の開催 ・予土県境地域連携事業の推進 □県（地域本部等） ・各協議会への参画、各種支援制度に関する情報提供			観光大使等の協力による PR		
観光人材の育成・情報発信の強化			観光人材の発掘・育成		
■(一社)四万十市観光協会、四万十市 ・観光人材の発掘と育成 ・SNS 等による発信の強化、一元的な情報発信の促進 ・四万十市にゆかりのある著名人や団体等による PR・誘致活動の実施 ・研修等の実施や参加促進 □県（地域本部等） ・研修等に関する情報提供					

幡多地域アクションプラン		分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.26 大月町の地域資源を活用した観光振興 (大月町)		
実施主体	◎大月町観光協会、大月町、町内事業者・関連団体		
AP への位置づけ	H21.4月		
事業概要	柏島や町内各所キャンプ場など大月町の強みである自然・体験型観光を推進し、食や花、歴史文化や景観も観光資源として磨き上げることにより、年間通して誘客できる魅力ある観光地域づくりに取り組む。また、事業者等との連携により町内周遊観光の促進を図るとともに、周辺観光資源も絡めた広域的な周遊の構成に取り組み、滞在交流人口の増大と地域の活性化を目指す。		

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
自然・体験滞在型観光の推進と地域資源の観光活用	- 竜ヶ浜キャンプ場の整備（H23） → 産振補助金の活用 - 観光ガイド会の設立（H29） → 産振アドバイザー制度の活用 - 体験型プログラム（備品等）の整備（H30） → 観光拠点補助金の活用 - 大月エコロジ－キャンプ場の施設改修（R2.3月） → 観光拠点補助金の活用 - 秋の自然体験イベントの開催（R2.9～11月） → 国立・国定公園への誘客の推進事業の活用 - 防災関係体験事業（R5） → 四国クワイエット助成金活用 - 檜西園地におけるグランピング施設整備（R5） → デジタル田園都市国家構想交付金の活用 - 観光と環境美化活動を連動させた事業（R5）	【成果】 - 自然体験型観光イベント増設数 R5：6件 R6：2件 - 入込数 H30：5.3万人 →R4：7.9万人 →R5：7.2万人 →R6：6.9万人 【課題】 - 柏島への一極集中の解消 - 冬の閑散期の誘客 - 人材確保
誘客促進と周遊観光の取り組み	- SNS等を活用した観光情報の発信（H28～） - 観光客の属性や消費額等のデータ収集・分析（R元） → 産振アドバイザー制度の活用 - 大月エコロジ－キャンプ場がキャブテンスタグ(株)と提携（R2～） - デジタルアンケートの実施（R4） - インバウンド観光客獲得に向けた案内ツール「MATCHA」の活用（R5～） - 観光PR・広域連携事業（催事出展等）（R5） - 町内周遊促進ガイドアプリQRおおつきさんぽ」完成、運用開始 → 周遊促進・滞在延長支援事業費補助金の活用（R7）	

観光

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
入込数	7.9万人 (R4)	6.9万人			8.3万人

第5期計画における行程表					
事業概要			R6	R7	R8 R9
地域資源を活用した滞在型観光の推進 ■大月町観光協会 ・新たな観光スポットの発掘 ・観光と環境美化活動を連動させた事業の推進 ・自然環境を生かした体験型観光の推進 ・地域植物に関連したワークショップやウォーキングツアーの開催 ■大月町 ・檜西グランピング施設等による滞在型観光の推進 □県（地域本部） ・支援策等の情報提供			観光スポット発掘 環境美化イベント等の開催 自然・体験型観光の推進 滞在型観光の推進		
誘客促進と周遊観光の取り組み ■大月町観光協会 ・催事出展等によるPR活動 ・インバウンド観光客への対応充実（職員のスキルアップ） ・SNS等を利用した情報発信 ■大月町 ・柏島、檜西園地等の観光地を軸とした周遊観光推進 □県（地域本部） ・催事、研修会等の情報提供 ・SNS等を用いた情報発信			催事出展等によるPR 案内ツール イベント開催 スキルアップ SNS等を利用した情報発信 観光地を軸とした周遊観光推進		

幡多地域アクションプラン

分野		観光
AP 名 (実施地域)	No.27 三原村の魅力をいかした滞在型・体験型観光の推進 (三原村)	
実施主体	◎三原村、◎(一社)三原村集落活動センターやまびこ、三原村商工会	
AP への位置づけ	H21.4月	
事業概要	豊かな自然環境のもと村内の農家民宿・農家レストランや濁酒特区の取り組み等を活用した滞在型・体験型観光を推進するとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地域の特性、資源を活用した滞在型・体験型プログラムの造成・磨き上げ	・観光プログラムの運用開始に向け、体験モニターを実施（R2） ・星ヶ丘公園（ヒメノボタンの里）交流棟・遊歩道の整備（R2） ・地域資源を活用した観光プログラムの造成（R3） → 観光アドバイザー（山村活性化対策事業）の活用 ・体験メニュー（スローサイクリング）の造成（R4～） → アドバイザー（農村 RMO 形成推進事業）の活用 ・星ヶ丘公園（ヒメノボタンの里）の老朽化した橋、遊歩道等の整備（R4） → 博覧会受入環境等整備事業費補助金の活用	【成果】 ・観光客入込数 R2：0.83 万人 → R4：1.16 万人 → R5：1.60 万人 → R6：1.40 万人 → R7：1.46 万人 ・体験プログラムの開発 R 元：2 件 → R3：3 件 → R5：3 件 ・研修等を通じて、地域観光ガイドを育成 地域観光ガイド数：4 人（R5） スローサイクリングガイド数：3 人（R6） → 9 人（R7） 【課題】 ・体験プログラムの造成及び磨き上げ ・主要催事のマンネリ化の解消 ・長期滞在の促進、滞在時間延長など経済波及効果を高める仕組みづくり ・観光の担い手不足 ・情報発信力の強化
誘客促進の取り組み	・村内外でのイベントで誘客促進を図るため、三原村の PR 動画を作成（R 元） ・三原村フォトコンテストの開催（R 元～） ・コロナ禍におけるカフェ運営のノウハウを習得（R2） → コロナ対策アドバイザーの活用 ・星ヶ丘公園への「ポケふた」設置（R6）	
推進体制の強化	・Facebook「三原村星ヶ丘公園／ヒメノボタンの里」での情報発信（R2～） ・土佐の観光創生塾受講 1 名（R4） ・草花ガイド養成講座受講 4 名（R4） ・スローサイクリングガイド研修会開催、申込予約 HP 作成（R6） → 農村 RMO 形成推進事業の活用 ・村 HP 等における情報発信のノウハウ習得（R7） → 産振アドバイザー制度の活用	

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
観光客入込数	1.16 万人（R4）	1.40 万人	1.46 万人		2 万人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
地域の特性、資源を活用した滞在型・体験型プログラムの造成・磨き上げ					
■ 三原村					
・新たな滞在型・体験型プログラムの造成・磨き上げ					
■ (一社)三原村集落活動センターやまびこ					
・観光客と体験プログラム実施主体との橋渡し					
・体験プログラム（スローサイクリングツアー）の実証及び運用開始					
・SNS 等を通じた情報発信					
□ 県（地域本部等）					
・産振アドバイザー制度等の活用提案					
誘客促進の取り組み					
■ 三原村					
・星ヶ丘公園（ヒメノボタンの里）の維持・管理					
・誘客促進に向けた施設整備の検討					
■ 三原村商工会					
・四万十かいどう推進協議会三原支部への支援					
・「ヒメノボタンの里めぐり」等のイベント運営					
□ 県（地域本部等）					
・各種イベント実行委員会への参画によるアドバイス、観光関連の情報提供					
・産振アドバイザー制度等の活用提案、各種支援制度の情報提供					
推進体制の強化					
■ 三原村					
・地域観光ガイドの掘り起こし・育成					
・アドバイザー等を活用した情報発信のスキルアップ					
・マスコミ等を通じた PR					
□ 県（地域本部等）					
・産振アドバイザー制度等の活用提案、研修及び各種支援制度の紹介					

幡多地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.28 黒潮町の地域資源を活用した観光の推進 (黒潮町)	分野 観光
実施主体	◎(特非)NPO 砂浜美術館、◎(一社)黒潮町観光ネットワーク、黒潮町	
AP への位置づけ	H21.4 月	
事業概要	黒潮町の豊かな自然環境や道の駅、観光施設などを活用した体験型観光の推進、教育旅行の誘致に加えて、ワーケーションの受入れを強化することにより、交流人口の拡大を図る。	

主な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ	・ホエールウォッチングにおける乗船者の安全確保のための施設・備品整備 (H29) → 遊漁船等振興事業費補助事業の活用 ・外国人旅行者をターゲットにした鯉のタタキづくり体験メニュー造成 (H29) → 産振アドバイザー制度の活用 ・MICE 誘致に向けたモニターツアーの実施 (R 元) ・砂浜トレニングプログラムの作成 (R2～) → 産振アドバイザー制度の活用 ・ワーケーションモニターツアーの実施 (R4～) ・インバウンドを対象にした防災ツーリズムモニターツアーの実施 (R5) ・アートツーリズムモニターツアーの実施 (R5) ・ダイブスポット調査 (R5) ・ウェルネスツーリズムモニターツアーの実施(R6) ・入野松原における松葉かき・門松づくりモニターツアーの実施(R6) ・大阪経済大学との包括連携協定を締結(R6) ・国土交通省「NIPPON 防災資産(優良認定)」に認定(R6) ・スポーツ庁「スポーツ・健康まちづくり(優良自治体)」に認定(R6)	【成果】 ・体験入込数 H30：8,456 人 → R4：7,610 人 → R5：6,735 人 → R6：6,434 人 ・イベント入込数 H30：70,575 人 → R4：31,658 人 → R5：47,868 人 → R6：52,498 人 ・防災ツーリズム入込数 R 元：173 人 → R4：983 人 → R5：1,074 人 → R6：1,258 人
誘客促進の取り組み	・黒潮町観光プロモーション動画作成 (R 元) ・YouTube チャンネル「黒潮町公式チャンネル Kuroshio Town」開設 (R 元) ・防災ツーリズム・一般観光の取り組み強化 (R2) → 産振補助金 (外部人材活用支援事業) の活用 ・黒潮町観光公式サイト・黒潮町防災ツーリズムサイトの開設 (R4) ・役場内に情報発信担当の地域おこし協力隊を配置 (R4～R6) ・観光ガイドブックのリニューアル (R5) ・防災プログラム/イベント (日/英) の造成 (R5) ・SNS における情報発信への助言・指導 (R5) → 産振アドバイザー制度の活用 ・黒潮町観光公式サイト・防災ツーリズムサイト英語版対応 (R5) ・黒潮町観光公式サイト・防災ツーリズムサイト多言語対応 (R7) ・持続可能な観光の国際認証(GD TOP100)取得 (R7)	【課題】 ・宿泊施設の確保 ・スポーツ合宿参加者の移動の利便性向上 ・ワーケーション受入環境の整備 ・町公式 SNS 等による情報発信の強化

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
(1)観光客入込数	103.5 万人 (R4)	107.8 万人			R9 110 万人
(2)町内の延べ宿泊者数	22,803 人 (R4)	22,841 人			25,800 人

第 5 期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
新たな観光プログラム等の検討 ■(特非)NPO 砂浜美術館 ・「学ぶ観光」をテーマにした学習プログラムの作成 (ホエールウォッチング、入野松原の再生、漂流物等) ・スポーツ合宿と体験プログラムを組み合わせた周遊プランの造成 ■(一社)黒潮町観光ネットワーク ・モニターツアー (防災・ワーケーション等) の実施 ・インバウンド受入強化 ・砂浜美術館コンテンツの見える化整備 (二次元コード) ・大学と連携強化し、ゼミフィールドとして活用できる仕組みの構築			学習プログラム作成	受入開始	
■黒潮町 ・ワーケーションモデルプランの作成、受入れの促進 □県 (地域本部等) ・観光関連施策の情報提供			モニターツアー	ツアー本格実施	
			県認定シェアオフィスの推進・ワーケーションモニター受入れ		
			大学のゼミフィールド受入れ		
情報発信の強化 ■(特非)NPO 砂浜美術館 ・イベントを通じての情報発信、各種広報活動 ■(一社)黒潮町観光ネットワーク ・黒潮町観光サイトの利用者分析及び広報内容の充実 ・旅行会社への誘致活動強化					黒潮町観光公式サイトの利用者分析、効果的なプロモーションの強化
■黒潮町 ・地域おこし協力隊による SNS を活用した情報発信強化 □県 (地域本部等) ・高知県観光コンベンション協会や幡多広域観光協議会との連携				SNS を活用した情報発信の強化	
				観光地域づくりの推進	

幡多地域アクションプラン		
AP 名 (実施地域)	No.29 集落活動センターやまびこによる三原村の産業振興 (三原村)	分野 その他
実施主体	◎(一社)三原村集落活動センターやまびこ、(農)三原やまびこ	
AP への位置づけ	H30.4月	
事業概要	特産品の開発及び販売、並びに一次産業の振興等を地域一体となって総合的に進めることで地域の活性化を図る。	

な取り組み	これまでの主な動き	
	取り組みの内容	主な成果・課題
新商品開発及び販売促進	・付加価値向上に向け、特産品の成分分析及び保存検査を実施(H30～R2) ・オンラインショップ「しとう家族商店」開設 (R2) ・ふるさと納税プロジェクトチーム会の発足 (R3) ・EC サイトの運用に関するノウハウを習得 (R3) → よろず支援拠点アドバイザーの活用 ・酒類通信販売業免許の取得 (R3)	【成果】 ・新商品開発 R2：2品 → R5：3品 → R6：4品 ・取引件数 H29：0件 → R4：9件 → R5：9件 → R6：16件 ・シトウ売上高(指標の内数) R2：1,180万円 → R4：1,667万円 → R5：1,771万円 → R6：1,524万円 → R7：1,317万円 ・特別栽培米「水源のしずく」 -売上高(指標の内数) R2：132万円 → R4：156万円 → R5：245万円 → R6：261万円 → R7：283万円 -栽培面積、農家数 R5：218.8a、9名 R6：236.8a、9名 R7：196.8a、8名
一次産業の振興	・情報発信及び付加価値向上に向け、米・食味分析鑑定コンクール及びお米日本ーコンテストに出品 (R元～R6) ・お米の販路拡大に向け五ツ星お米マイスターを招へい (R3) → 山村活性化対策事業の活用 ・ブランド米の販路拡大に向けた山形県の先進地視察 (R4) → 農村 RMO 形成推進事業の活用 ・ブランド米の販路拡大に向けた香川県の先進地視察 (R5) → 農村 RMO 形成推進事業の活用 ・ブランド米の精米・選別作業における精米ライン導入 (R6) → 農村 RMO 形成推進事業の活用	【課題】 ・特産品の販路拡大 ・一次産業の後継者確保

指標	出発点	実績			目標
		R6	R7	R8	
売上高	2,148万円 (R4)	2,030万円	1,877万円		2,400万円

第5期計画における行程表					
事業概要		R6	R7	R8	R9
販路拡大	■(一社)三原村集落活動センターやまびこ ・県内外の商談会・イベントへの出展による飲食店・小売店等への販路開拓 ・ネット販売やふるさと納税の取組強化 □県 (地域本部等) ・イベント・商談会等の情報提供、関係者への橋渡し				イベント・商談会への出展
	特産品のプロモーション活動 ■(一社)三原村集落活動センターやまびこ ・PR 素材作成、商談会、イベント等への出展 □県 (地域本部等) ・高知県地産外商公社等への橋渡し支援	PR 素材の作成			特産品のプロモーション活動
	新商品開発 ■(一社)三原村集落活動センターやまびこ ・コンセプトづくり、試作品づくり、市場調査 (消費者の意見集約) ・製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現 □県 (地域本部等) ・新商品開発に向けた産振アドバイザー制度等の活用提案 ・各種支援制度に関する情報提供	市場調査		新商品開発	販売
	米のブランド化 ■(一社)三原村集落活動センターやまびこ ・土壌調査の実施による土壌改良 ・効率化・省力化に向けた村・関係機関等との設備導入等の検討 □県 (幡多農業振興センター・地域本部等) ・ブランド米栽培に関する技術指導・情報提供 ・その他各種支援制度の紹介、関係機関への橋渡し			ブランド米栽培田の土壌改良	
ししとうの栽培・出荷	■(農)三原やまびこ ・地域住民の生きがいづくりの一環として JA 高知県へのししとうの安定出荷 ・後継者確保・育成 □県 (幡多農業振興センター等) ・ししとう栽培に関する技術指導・情報提供	設備導入等の検討		設備導入による効率化・省力化	
				ししとうの栽培・出荷	
【用語】・特別栽培米：その米が生産された地域の慣行レベル (各地域の慣行的に行われている節減対象農薬及び化学肥料の使用状況) に比べて、節減対象農薬の使用回数が 50%以下、化学肥料の窒素成分量が 50%以下で栽培された米。					